

「読むための型」を学ばせる授業の研究 ～フィンランド国語教育に学ぶ物語教材の授業改善～

門松直子, 菅 邦男

A Study on Classes to Have Students Learn “Patterns to Read” : Improvement in Classes by Studying the Education of their Native Language in Finland, Using Teaching Materials from Stories

Naoko KADOMATSU and Kunio SUGA

はじめに

近年, OECD (世界協力開発機構) による学習到達度調査 (PISA) で高い学力水準を維持しているフィンランド教育が注目されている。2000年, 2003年, 2006年の調査の結果, フィンランドは全ての分野において4位以内という好成績であった。2006年の調査では, フィンランドの科学的リテラシーは1位, 数学的リテラシーは2位, 読解力は2位である。それに対し, 日本の科学的リテラシーは6位, 数学的リテラシーは10位, 読解力にいたっては15位という結果であった。

日本は, 2000年, 2003年の科学的リテラシーだけは同順位であるが, 他は全ての分野において, 調査のたびに順位が下がっている。読解力に焦点をあててみると, 2000年の日本の読解力は8位, 2003年は14位, 2006年は15位であった。この結果を受けて, ゆとり教育の弊害もささやかれるようになった。PISA調査において, 全ての分野で高い学力水準を維持しているフィンランド教育には, どのような秘密があるのだろうか。

フィンランドで使用されている国語教科書翻訳版が出版された。『日本語翻訳版 フィンランド・メソッド 5つの基本が学べるフィンランド国語教科書』(北川達夫&フィンランド・メソッド普及会訳・編)である。現在小学校3～5年生までの国語教科書が翻訳されている。大学でフィンランド国語教科書を使ったゼミを受けた。読むこと, 書くこと, 表現することの楽しさを体感できるフィンランド国語教科書との出会いは, 衝撃であった。読むこと, 書くこと, 表現することが, こんなに楽しいものだったのかと驚いた。自分自身は, このような楽しさを生徒に味わわせてきただろうか。授業の根幹には, 読むこと, 書くこと, 表現することの楽しさがなければならぬと改めて痛感した。一言で表すなら, フィンランド教育には, 「ワクワク感」があるのだ。楽しく読み, 書き, 表現する活動の中で力がつく, それがやはり授業の理想ではないだろうか。北川氏は同書で, フィンランドの「国語教科書の最大の目的は, 『生徒に考えさせること』であって, 『答を見つけ出すこと』ではない」と指摘している。

学力の高い子どもと低い子どもとの差が大きい日本では、学力の二極化が心配されている。フィンランドでは学力の格差が少なく、PISA調査における無回答率も、日本の無回答率に比べて、格段に低かった。フィンランド教育では、授業の中で常に考えること、想像すること、書くこと、表現することなどを子供たちに経験させている。その日常の積み重ねこそが、フィンランドのPISA調査結果につながったと言えるのではないだろうか。

日本の教育を担い、生徒達に確実に力をつけていく責任を負っているのは、私達教員である。中学校の国語科教師として、授業を通して、目の前にいる生徒1人1人に国語の力を十分に、そして楽しく身につけさせたい。

本研究では、フィンランドの国語教育の魅力、特に国語教科書の設問の魅力に迫り、自らの授業改善を図っていきたく考えた。

1 過去の授業反省

- 日本では教材の特性、生徒の実態、教師の意図等により、様々な発問がなされている。1つ1つのによって発問が異なると言ってもいいだろう。自分自身は、教材のポイントとなる部分を自分で判断し、発問を通して生徒に考えさせ、生徒1人1人に国語の力をつけたいと願ってきたつもりであった。しかし、毎年4月に行われる標準学力検査では、「読む力」の育成が十分ではないという結果が出るが多かった。「読む力」を伸ばそうとするあまり、徐々に読むことにしか目が向かなくなっていく。内容を正確に読み取れることが第一であるから、正確に読み取らせる活動を繰り返していくことが先決であると考え、教科書の内容に即した発問と応答を繰り返して、「読む力」を伸ばそうと試みた。「読むこと」の指導に力を入れようとした分、書くことを避けるが多かった。書く活動を取り入れると、時間がかかる。書く力にも個人差がある。単元の最後に何らかの形で書かせることはあっても、日常的に書くことを取り入れることはあまりなかった。読めなければ書けない、読めることが基本であると考えていたため、書くことに対する指導がおろそかになっていた。学習のまとめの段階で、単元の内容に関わる短作文や詩、短歌や俳句を書かせると、普段の授業ではなかなか活躍できない生徒の目が輝くことがあった。しかし、日常的にその目を輝かせることはできていなかった。「読む力」も思ったほど伸ばすことはできなかった。

振り返ってみると、自分の行ってきた授業は、話す・聞く、書く、読むといった学習活動がアンバランスであった。そのバランスの悪さを産み出していた要因は、国語の授業を通して生徒に育成したい力の捉え方がグローバルではなかったこと、そして発問があいまいであったことにある。

そもそも、言葉の力を総合的に身につけさせるべき国語科の授業において、視点が「読むこと」に偏りすぎていた。入試に自信をもって臨めるように、テストで点数を取らせ、分かる楽しさを感じさせたいという視点でしか生徒に育成したい力が捉えられなくなっていた。そのため、一つの正しい解答を導くには、本文のどの言葉に着目し、どのように読み取ればよいのかという解法のテクニックを教授するような授業に傾いていった。生徒に育成したい力の捉え方が、あまりに狭かった。

発問自体もあいまいであった。「読むこと」の指導に偏った発問を繰り返す中で、「読むこと」に焦点化したつもりでの発問さえ、場当たりのあいまいなことが多かった。「この

発問で生徒に力がついているか。」ということに自信がもてないままであった。毎時間の学習が次時の学習に生かされているという実感も、もてなかった。自分の授業には「発問の型」というべきものがなかったため、説明的文章はどのように読ませればよいのか、文学的文章はどのように読ませればよいのか、その都度迷いがあった。教師に作品をこのように読ませたいという「型」がなかったため、生徒は「国語は、自分だけでは日頃の学習やテスト勉強でどのように勉強すればよいのかよく分からない。」といった状態であったように思う。

教師の発する発問を通して、生徒は、話す・聞く、書く、読むといった学習活動を行い、教材の内容やことがら、表現や論理、作者や筆者について考えることを通して、国語の力をつけていく。生徒にどのような力を育成したいのかということの基本になるものが、授業で教師が行う発問である。発問の是非によって、生徒の学習活動の充実度が決まり、結果的に生徒1人1人に力をつけることができたかどうか、発問の如何によって決まる部分が大きい。自分の授業の最大の弱点は、生徒達に何をどのように考えさせたいのかということのもとになる発問が、場当たりの、あいまいであったことにある。

生徒に育成したい力をグローバルに捉え、毎時間の授業の中でバランスのよい学習活動が行えるよう適切な発問をし、学び方が次の学習に生かせるような指導ができるようになりたい。そのために、授業を通して、生徒1人1人にどのような力を身につけさせなければならないのか、教材を使って学習する際の「型」を学ばせるためにはどのような発問を行えばよいのか、もう一度、原点に立ち戻る必要があると考えるようになった。

そこで出会ったのがフィンランド国語教育である。フィンランド国語教育は、考え方の「型」を学ばせることに力点を置いている。「型」を学ばせるという教育方法に対して、全てを「型」にはめることは、それこそ生徒達を「型」にはめる教育であり、生徒の自主性を摘んでしまうのではないかという反論もあるだろう。では、考え方の「型」を学ばせているフィンランドの国語教育が育ててきた生徒達のPISA調査の結果は、どのように説明すればよいのであろうか。国語教科書に示された具体的な設問の分析を行うことで、フィンランド国語教育が子どもたちに高い学力を保障してきた「学ぶための型」の秘密に迫りたい。

2 フィンランド国語教育の魅力

(1) フィンランド教育の何がすごいのか

○ フィンランドの年間授業日は190日と、日本より40日程度も少ない。にも関わらず、フィンランドはPISA調査のどの分野においても、国際的に常に高水準を維持している。読解力は、2000年1位、2003年1位、2006年2位と、上位をキープしている。授業日数が少ない中でのこの成績である。

『オッリペッカ・ヘイノネン 学力世界一がもたらすもの』によると、「PISAの結果を見ても、フィンランドの子どもの校外の学習時間は、日本よりも短く世界で最低レベルである。しかし読書への関心と読書量は世界1である。」とある。詰め込み教育ではない。もちろんこれらの背景には、フィンランドの教育制度、教員の質の高さ、読書好きな国民性など、様々な要因が絡んでいると言われていたが、特に教員の質の高さにはこだわりがある。

同書によると、「フィンランドでは教師は社会的な地位が高く、就きたい職業のトップである。しかし実際に教育学部に入れるのは志願者の1割という狭き門。教師になるには、最低5年大学で学び、修士号を取得しなければならない。教師をめざす学生たちは、付属の小中学校で、1年生のころから積極的に授業に関わり、50回を超える実践的な教育実習を繰り返す。実習生の教え方や子どもへの接し方を大学の指導教官とクラス担任がじっと見守り、助言を与える。教師に向いていないと判断されれば、転部を勧められる場合もある。」という。

日本の教員養成システムと比べると、まず教師になるためのスタートラインが違うのである。また、教師としてスタートしてからの学ぶ姿勢も違う。同書には、「教師たちには能力向上のための研修やセミナーに参加する時間が十分に保障されているのだ。クラブ活動などは別の専門家が受けもち、残業もほとんどない。授業の準備にじっくりと専念し、常に自分を磨いている。」とある。教師になってからも常に自分を磨いていくことが求められ、そのシステムが整っている。これは、フィンランドの教師が質が高いと言われる1つの大きな所以であろう。

その質の高いベテランの教師が、教科書を作成するという。同書には、「伝統的に非常に質の高い教科書やそのほかの教材があるのです。そしてこれもやはり力量のある教師と切り離せません。それは、ベテランの教師たちが教科書をつくっているからです。フィンランドには教材の検定制度や規制がありませんが、以前から高水準の教材を自主的に管理し産み出すシステムがあります。」「どの教科書がよいのかをいちばんよくわかっているのは、やはり学校や教師ですので、国がお墨つきを与える必要はないと判断したのです。」とある。

フィンランド教育が成果を上げている最も大きな要因は、質の高い教師が、質の高い教科書を使って行う毎日の授業の積み重ねにこそあるはずである。

フィンランド教育が成果を上げている秘密を国語教科書の中から探してみたい。

(2) どんな生徒を育てたいのか

- 『フィンランド・メソッド 5つの基本が学べる フィンランド国語教科書』には、次のように述べられている。「フィンランドの国語教科書の根底にあるのは、『自分の言いたいことを、相手が理解できるように、相手が納得するように伝えること』『相手の言うことを、できるだけ正確に理解すること』の2点です。この2点は、いわゆるコミュニケーション力の基本と言えるでしょう。(中略)ここでいう『相手』とは、ただの相手ではありません。『相手が世界中のどこのだれであろうと自分の言いたいことを伝え、相手が世界中のだれであろうと、その言うことを理解できなければならない』ということです。こうなると、単なるコミュニケーション力ではありません。いわば、『グローバル・コミュニケーション力』の習得を、フィンランドの国語教育は目指しているのです。」

日本では、このような考え方のもとに国語教育が進められているだろうか。少なくとも自分自身は、学習指導要領に示された目標を達成することを目指していたつもりでも、いつの間にか「内容を正確に読み取らせること」に汲々とし、「生徒に国語の力がついたか」ということを「生徒がテストで点数を取れたか」で評価することが多くなっていた。フィンランドの国語教育が目指している生徒に育成したい力は、自分がとらわれて

しまっていた生徒に育成したい力とは、スケールが全く違う。

同書には「今後、世界のグローバル化と社会の国際化が進むと考えられますから、グローバル・コミュニケーション力は将来的に最も必要とされる能力といえるでしょう。」とある。変化していくこれからの社会に柔軟に対応し、たくましく生き抜く生徒を育成するためにも、広い視野をもち、「グローバル・コミュニケーション力」の育成を念頭に置いた授業の展開が必要となるだろう。

(3) 何のための国語教科書か

- フィンランド国語教科書は、絵、写真、図、表などがふんだんに掲載されており、カラフルである。特に注目すべきは、本文の後に設問が明示されていることである。しかし、設問の解答はついていない。北川氏によると、「教師用指導書にも、考え方やヒントが示されているだけで、原則として『正答』は掲載されていない」のだと言う。

それは、フィンランド国語教科書が、「考えるための教科書」であることを示している。「解答を出すための教科書」ではない。教師と生徒が、「問題について一緒に考え、話し合い、解決策を模索するための教科書」であるため、基本的には『絶対に正しい答え』というのは、最初から存在しないのである。フィンランドの国語教科書では、「解答そのものよりも、むしろ解答を導き出すプロセスを重視している」と言われる。そこで、「フィンランドの国語の授業では、児童や生徒が問いに答えると、先生は必ずといっていいほど『どうして？(ミクシ?)』を質問します。どうしてそう思ったのか？ どうやってその答を導き出したのかを問うのです。きちんと理由付けができれば、答として認められません。たとえ解答自体は適切であっても、理由がなければ『正答』とは認められないのです。」という考え方のもと、授業が展開されていく。選択肢問題や、理由付けによってマルにもバツにもなりうる選択肢問題でさえ同様に理由付けが求められるため、「すべての可能性について、じっくりと自分の頭で考えなければならない。」のである。「日本の国語の問題のように消去法で解くことはできません。」という指摘もある。日本の国語教育の在り方、テストの在り方から考えると、「『絶対に正しい答え』というのは、最初から存在しない」ということ自体、かなりの違和感がある。説明的文章においても、文学的文章においても、叙述を根拠にした妥当な解釈は存在するはずである。テストでいうと、その解釈の最も妥当性の高いものが解答として示されるわけであるが、フィンランドではそもそも、このようなテストで学力をはかるうとはしていない。前述の「自分の言いたいことを、相手が理解できるように、相手が納得するように伝えること」ができるか、「相手の言うことを、できるだけ正確に理解すること」ができるかという観点で、評価されるのだと言う。『競争やめたら学力世界一 フィンランド教育の成功』によると、「義務教育期間である16歳までは、他人と比較するためのテストも競争もない」という。大学入試資格試験などの試験問題は、記述式である。同書によると、「フィンランドの試験問題は記述式なので、単なるトレーニングだけでは点は上がらない。さらに、点の取れそうな科目を選ぶのではなく、将来の職業に必要な科目を選ぶわけで、目標は実力がつくことであり点数をとることではない」とある。

そのように考えれば、日本の入試制度で行われているテストそのものが、「生きる力」

の育成を目指した学力をはかるテストになっているかというところから、見直していかなければならないのかもしれない。

「考えるための教科書」がなぜ必要なのか。その答えを見つけるために、フィンランド国語教科書の特徴、教科書に明示されている設問の特徴をとらえ、フィンランド国語教育が確実に学力を育成している秘密に迫っていききたい。

(4) フィンランド国語教科書の特徴

- フィンランドの初等教育における国語教科書は、日本の教科書には見られない工夫が様々になされており、大きく以下の4つの特徴がある。

① 各学年5部構成である。本文は場面ごと、または意味段落ごとに分けて記載されており、ほとんどの単元で本文が読みやすいように小見出しがつけられている。

日本では、続けて書いてある本文を意味段落ごとに分けさせたり、小見出しをつけさせたりすることはあっても、はじめから場面ごと、意味段落ごとに本文を分けて掲載してあることはない。フィンランド国語教科書は、本文が場面ごと、意味段落ごとに分けて掲載されており、「～は～かな?」「～は～だろう?」「なぜ～かな?」といったカラーの見出しがついている。その見出しを読み、先を想像しながら楽しく読み進めることができるように工夫されている。

② 各部の単元には設問（日本で言う授業中の発問、指示）が明示されている。各単元の設問には、話す・聞く、書く、読むの学習活動がバランスよく配置されている。その設問に沿って授業を展開していく中で、発想力、論理力、表現力、批判的思考力、コミュニケーション力の5つの力を系統的に身につけさせていけるよう考慮されている。

日本の教科書の各単元には、設問は明示されていない。単元の終わりに学習の手引きはあるが、手引きの内容が抽象的かつ高度であるため、それが即発問には結びつかない。たとえ手引きに示された設問をそのまま発問したとしても、一部の理解力が高い生徒が数名反応できるだけで、皆の学習にはなりにくい。フィンランド国語教科書に明示されている設問は一問一答式である。各単元に2～20問ずつ設問が明示されており、基本的な設問から難易度の高い設問まで、バランスよく配列されている。話す・聞く、書く、読むの学習活動も、バランスよく設定されている。その教材で何を考えさせ、どのような活動を行わせるとよいか、教師にも生徒にも一目で分かる。様々な学習活動を行わせる中で、発想力、論理力、表現力、批判的思考力、コミュニケーション力の5つの力を系統的に身につけさせていけるような仕組みとなっている。

③ 文章の他に絵、写真、図、表などがふんだんに掲載され、本文の理解を助けている。それらをもとに本文を読み取らせる設問も設けるなど、豊かに読み取らせる工夫がある。

日本の教科書にも、絵、写真、図、表などは掲載されているが、フィンランドの国語教科書ほど、ふんだんに掲載されていない。このような絵、写真、図、表などに注目

させることはあっても、それらを読み取らせる設問を設けるということは、自分自身はほとんどできていなかった。フィンランド国語教科書では、絵、写真、図、表なども読み取らせる設問が設けられ、それらと本文とが互いの理解を助ける役割を果たしている。

- ④ 話す・聞く、書く、読むといった学習活動の中でも、特に書く活動が重視されている。どの単元でも書く活動を繰り返し行うことにより、文章を書くための「型」を学ぶことができるように構成されている。

日本の中学校では、各単元の学習時間は3～5時間程度と短く、全ての単元において話す・聞く、書く、読むの学習活動をバランスよく行うのは、なかなか難しい。特に、各単元において常に書く活動に取り組むことは、至難の業である。フィンランド国語教科書の書くことに関する設問は、ほぼ全ての単元に設けられており、日常的に書く活動が行えるように構成されている。文章を読むことを通して、文章を書くための「型」を教え、「作文特訓道場」という特設単元での学習を通して、文章を書くための「型」を学ばせている。教科書全体を通じて、書く機会をできるだけ多く設け、発想力、論理力、表現力、批判的思考力、コミュニケーション力の5つの力を段階的に身につけていけるように考慮されている。

場面分け、意味段落分けされ、小見出しがついているため、読みやすい教科書。絵、写真、図、表などがふんだんに掲載されているため、楽しい教科書。設問が明示されているため、何をどのように考えればよいのかが分かりやすい教科書。学習活動のバランスがよく、想像を働かせて書く活動が随所に設定されているため、個性や表現力が発揮できる教科書。そんなフィンランド国語教科書は、生徒がワクワクする教科書ではないだろうか。

(5) 教科書に明示された設問

- 上に挙げた4つの特徴のうち、フィンランドの国語教科書と日本の国語教科書との最も大きな違いは、各単元に設問が設けられていることであろう。発想力、論理力、表現力、批判的思考力、コミュニケーション力の5つの力を育成するという考え方のもとに示された設問は、非常に具体的である。設問は、難易度別に次のように3つに分類されている。

① 基本問題

- ・ 教科書に沿った内容を読み取らせる設問
(PISA調査における「情報の取り出し」にあたる)

② 応用問題

- ・ 登場人物の行動の理由や自分の考えなどを問う設問、物語や説明文などを書くことを指示する設問
(PISA調査における「解釈」・「熟考・評価」にあたる)

③ 発展問題 (3年生は2問、4年生は2問、5年生に発展問題はない。)

- ・ 言語事項を問う設問や自分の体験や要望を書くこと等を指示する設問

※ 基本問題、応用問題には、参考問題という注意書きのある設問もある。

- ・ 参考問題は、インターネットで検索しなさいという設問が多い。

○ 3つに分類された問題は、「難易度別に色分け」されており、「濃い色の設問は『基本問題』、薄い色の設問は『応用問題』、そして別の色の設問は『発展問題』」とされている。「この色分けは、小学生の自尊心を傷つけないための配慮であり、フィンランドの教科書には色分けに関する説明は一切掲載されていません。」とある。設問が具体的な上に、細かく配慮された教科書である。

これらの設問は、教師は全ての発問を取り扱ってもよいし、児童、生徒の実態に応じて、設問の順番を変えたり、いずれかの設問を省いたり、新たな設問を加えたりして授業を進めてもよい。1単位時間内にどの設問まで問うのかは、教師の考えと児童の実態などにより、様々である。

以下、各学年の教科書に明示されている設問のさらに細かい分類を試みることで、フィンランド国語教科書の設問の特徴をつかんでみたい。日本の教科書とは教材文が違うため、設問をそのまま流用することはできないが、設問をもとに学ばせるその「型」は、今後の実践にも大いに参考になるのではないだろうか。

(6) 設問の特徴

○ 『フィンランド・メソッド 5つの基本が学べる フィンランド国語教科書』の初等教育3年～5年の教科書に掲載されている設問を一覧表にまとめてみた。各単元に示された設問を、問題の種別、回答の形式、設問のねらいなどで分類を行い、ジャンル別に並べて見てみると、各ジャンルごとに繰り返し問われている設問があることが分かった。各ジャンルごとに特徴的な発問が繰り返されているということである。その特徴が最も顕著に表れているのは、物語教材の設問であった。

同書によると、「フィンランドの国語教育の特徴は、考えかたを型として示すことです。この特徴は教科書の中にも色濃くあらわれています。最もわかりやすいのは、物語を創作する際の型でしょう。」とある。フィンランド国語教科書では、どの単元を学ぶ際にも、設問を通して、何をどのように考えようかという「考え方の型」が示されている。特にその特徴が顕著であるのが、「物語を創作する際の型」なのである。

フィンランド国語教科書では、特に書く活動が重視され、ほぼ全ての単元を書く活動が位置づけられている。前述した「作文特訓道場」と名付けられた単元は、3年生は5単元、4年生は4単元、5年生は3単元、特設されており、「書くための型」が示されている。各単元の最後の設問も、書く活動でしめくくられていることが多く、書く活動が入らない単元はほとんどない。フィンランド国語教科書は、設問を通して「書くための型」を学ばせ、その型にしたがって表現活動を行わせるしくみになっているのである。ここで特に注目したいのは、「書くための型」だけでなく、各単元に示された「設問の型」である。

「設問の型」が最も特徴的であるのは、物語教材である。物語教材の設問にしぼり、設問のねらいごとに分類を行って、物語教材を考えるための型、つまり物語教材を「読むための型」とはいかなるものであるかに迫ってみたい。

(7) 各学年の物語教材設問分類表

- 各学年の物語教材の設問のみを抜きだし、單元ごとにまとめた後、設問のねらいごとに分類し直すと、後に示すような発問分類表になった。(資料1-1～5参照) この表を見ると、物語教材の学習では、どの單元でも繰り返し問われている設問があることが改めて分かる。また、物語教材を学習する際に、どのような設問をどのような順で問うことにより、どのようなことを考えさせようとしているのかという指導の意図をくみ取することもできる。

(8) 読むことと書くことの一体化

- 設問分類表に示した通り、フィンランド国語教科書には、「書くための型」だけでなく、設問で問われた内容を考えるうちに自然に身につけることができる「読むための型」も存在することが分かった。

設問の内容を考えることを通して「読むための型」を経験し、読むことを生かした書く活動を通して「書くための型」を経験するのである。これこそが、フィンランド国語教育の最大の魅力であろう。フィンランド国語教科書では、読むことと書くことの一体化が図られている。楽しく読み、楽しく表現する経験が、次の単元の学習に生き、学習意欲の喚起にもつながっていくように構成されているのである。

(9) 「読むための型」の生かし方

- 設問分類表から判断すると、フィンランド国語教科書では物語教材を学習する際、以下の17の設問を中心とした授業が展開されていることになる。ほとんどの設問を扱っている單元もあれば、この設問のうちいくつかにしぼって扱っている單元もある。その單元の特徴や配当時間、児童の実態、教師の意図などにより、指導の在り方は異なる。しかし、設問に「読むための型」があれば、全ての教材において、その単元のねらいや教材の特徴、配当時間、生徒の実態や教師の意図などを考慮した発問が考えやすくなる。場当たりのあいまいな発問を避けるためには、このような「読むための型」が必要である。

物語教材を読むための具体的な設問の内容と流れを整理し、物語教材における「読むための型」の典型を探ってみたい。

(10) 物語教材における「読むための型」の典型

1 登場人物を問う設問

- ① この物語の主人公はだれですか。
 ※ (つぎの書き出しに続くように書きなさい。)
 「この物語の主人公は・・・」
- ② この物語には、2人の主人公がいます。だれと、だれですか。
- ③ この話の主人公はだれですか。この話のわき役を、すべて書き出しなさい。
- ④ ～の登場人物の中から、それぞれあてはまる人物を答えなさい。
 a 支配者
 b 若者
 c 老人
- ⑤ 登場人物のうち、あなたがもっとも興味を持った人物は、だれですか。なぜ興味をもったのか、理由も書きなさい。
- ⑥ 次の人物について、説明しなさい。(後に登場人物の名前が書いてある。)
- ⑦ ～の登場人物と、よく似ている人をさがしましょう。家族や友だちで、～の登場人物のだれかと、似ている人はいませんか。あなたは、だれかと似ていませんか。なぜ似ているといえるのか、理由も説明しなさい。

- 登場人物を問う設問は、ほぼすべての物語教材において、設定されている設問である。物語の学習の第1問目として、問われることが多い。誰が出てくる物語かということをも初にとらえさせようとしている。3年生では主人公のみを問う。設問②のように、主人公が2人いるという柔軟な捉え方をする場合もある。物語教材の初めの単元では「つぎの書き出しに続くように書きなさい。」との指示もあり、答え方の「型」を学ばせようという意図が分かる。学年末の単元では、この指示は出てこなくなる。この頃にはもう、書き慣れていると判断するのであろう。4年生では、わき役を問う発問が加わる。5年生では、設問④、⑤、⑥、⑦のように、登場人物に関するバラエティーに富んだ設問が設けられ、登場人物の把握だけでなく、登場人物をより身近な存在としてとらえさせる工夫もなされている。「主人公はだれですか。わき役はだれですか。」という問い方で、主役とわき役をはっきりさせ、登場人物のうち、誰が中心となって話が展開していく物語なのかをとらえさせることは大切である。また、設問④～⑦のように、登場人物をどのようにとらえるか、生徒1人1人の個性が出るような発問も、興味深い。中学生であっても、一読後すぐに内容が理解できる生徒もいれば、十分に理解できない生徒もいるのが実態である。登場人物とその関係を確かめる発問は、物語教材の理解の入り口として、どの学年においても有効な発問である。

2 物語の場所、場面を問う設問

- ① この物語には、ふたつの場所が出てきます。どことどこですか。つぎの書き出しに続くように書きなさい。
「この物語に出てくる場所は・・・」
※ 場所という言葉が、場面という言葉になっていることもある。
- ② この話には、大きくわけて2つの場所が出てきます。どこと、どこですか。
- ③ この物語の場所のうつりかわりを、すべて書き出しなさい。
- ④ この話には、たくさんの場面があります。場面を、すべて書き出しなさい。
- ⑤ それぞれのエピソードに出てくる場面をすべて書きなさい。

- 物語の場所、場面を問う設問も、ほぼすべての物語教材において、設定されている設問である。登場人物の把握の後、第2問目として問われる場合が多い。どの学年においても、物語が展開される場所や場面をとらえさせようとしている。ここでも3年生の物語教材の初めの単元では「つぎの書き出しに続くように書きなさい。」と指示して、答え方の「型」を学ばせようとしている。登場人物を問う設問と同様に、学年末の単元では、この書き出しの指示はなくなる。4年生、5年生では、「場所（場面）をすべてあげなさい。」といった発問に変わっていく。

「いくつの場面がありますか。」「どこで場面が変わりますか。」等の発問はよく行っていたが、設問①～⑤のように「場所が2つあります。どことどこですか。」「場面をすべて書き出しなさい。」という発問の方が生徒にとっては考えやすく、抵抗が少ない。物語の場所、場面を問う発問は、物語の基本要素をとらえさせる有効な発問である。

3 登場人物がかかえている問題を問う設問

- ① 主人公は、ある問題のために、こまっています。その問題とは、何ですか。
- ② ～と～は、それぞれ問題（心配なこと・こまっていること・いやなことなど）をかかえています。～の問題は何ですか。～の問題は何ですか。
- ③ ～と～は、それぞれ何をしようとしていましたか。
- ④ この話のはじめに、～が困っていたことは何ですか。この話の終わりに、～が困っていたことは何ですか。

- 登場人物がかかえている問題を問う設問は、登場人物、場面の次、第3問目として問われることが多い。どの学年でもほぼ設定されている設問である。主人公、あるいは登場人物の何人かが、何で困っているのか、問題は何なのかをとらえさせようとしている。フィンランドでは、物語の型として、主人公、ほかの登場人物、場所の設定などの書き出しの次に、問題が起こるといふ展開の型を示している。何か問題が起こるからこそ、物語は展開していくのである。問題は1つとは限らないため、設問④のように、はじめに困っていたこと、終わりに困っていたことのどちらもとらえさせるような発問も有効である。

「～の問題は何ですか。」のように、主人公や登場人物が直面した問題を確認させる設問も、物語の基本要素をとらえさせる有効な設問である。

4 登場人物の問題解決方法を問う設問、登場人物の行動に対する意見を求める設問

- ① この物語の主人公は、どうやって問題を解決しましたか。その方法について、どう思いますか。
- ② ～と～は、どうやって目的を達成しましたか。あなたは、～がしたことについて、どう思いますか。
- ③ 主人公は問題を解決しようとしませんが、なかなか解決できません。そのことについて、つぎの順番どおりに、説明しなさい。物語に書かれている順番とはちょっとちがうので、注意すること。
- A ～を～しようとする。
- B ～を～する。
- C ～で～を～する。
- ④ ～は、どのようにして困っていたことを解決しようとしたか。実際には、解決しましたか。
- ⑤ 「～」（作品名）のエピソードで、だれが、どのような～を～ことにより、どのような結果がもたらされていますか。
- ⑥ ～が、～したことは、～だと思いますか。それとも、～ではないと思いますか。そう思った理由も答えなさい。

- 登場人物の問題解決方法を問う設問は、どの物語教材でもよく問われる設問である。登場人物のかかえる問題をとらえた後の第4問目として問われることが多い。登場人物は、どうやって問題を解決したのか、その問題の解決方法をとらえさせ、それについて自分はどのように思うかを考えさせようとしている。

「登場人物はなぜそのようにしたのですか。」「その行動のきっかけは何だったのですか。」という発問はよくしていたが、「どのようにして問題を解決しましたか。」「その方法をどう思いますか。」という発問は、ほとんどしたことがなかった。

フィンランドでは物語にも型があると考えられている。物語の中で問題が発生し、登場人物がその問題を解決しようと挑戦し、失敗を繰り返していくという型は、その典型である。上記の設問は、登場人物を単に物語の中の登場人物としてではなく、身近な存在としてとらえさせ、その行動を自分と比較しながら評価させることをねらっていると考えられる。登場人物を身近にひきよせて読むことを促す有効な発問である。

5 登場人物の性格を問う設問

① この物語の～は、どのような登場人物ですか（どういう性格だと思いますか）。下のことばから当てはまるものをすべてえらびなさい。または、自分で適当な言葉を考えなさい。そして、つぎの例をさんこうにして書きなさい。

〔例〕 「～は（〇〇〇）て、（△△△）です。」

※ 11～18個の選択肢あり

② ①のことばから、いちばんよく～を説明していると思うものを、ひとつだけえらびなさい。なぜそのことばが～をいちばんよく説明していると思うのか、理由を考えなさい。そして、つぎの例をさんこうにして、答えを書きなさい。

〔例〕 「～は（〇〇〇）です。なぜなら（□□□）からです。」

③ この物語には、どのような～が登場しましたか。いちらん表をつくりましょう。

④ ～（登場人物）を、いちばんよく言いあらわしている言葉は、どれですか。この話のどの部分を読んで、その言葉を選ぶことにしましたか。

⑤ ～の性格をあらわす言葉は、どうやって選びましたか。選んだ言葉の、理由となる部分を、文中から探しなさい。

⑥ ～の登場人物から1人を選び、その人物についての情報をカルタにまとめなさい。ページを読みすすめるうちに、新たな情報が得られたら、カルタに書き足しましょう。

- 登場人物の性格を問う設問は、どの物語教材でもよく問われる設問である。物語で起こった問題の内容、解決方法、それに対する意見の設問の後の第5問目として問われることが多い設問である。登場人物の性格を問う設問①～⑥の中で注目すべき点は、以下の3点であろう。

ア 性格を問う設問に、選択肢がある点。

日本では、性格が読み取れる本文の言葉にアンダーラインを引かせたり、性格を問うて、それが分かる本文の言葉を見つけさせたりすることが多い。フィンランドでは、設問に答えるヒントとして、性格を表す言葉の選択肢がある。なかなか自分の考えをまとめられない生徒にとっては、選択肢があると考えやすい。選べばよいという安心感も生まれる大変有効な設問である。選択肢の中から必ず選ばなければならないわけではなく、

自分で考えてもよいとして答え方に幅を持たせている点も、生徒1人1人によく配慮されている点である。

イ 一番よく登場人物を説明していると思う言葉を一つ選び、その根拠を本文の言葉に求めるよう指示している点。

自分の考えを述べる際に、常に本文の言葉を根拠にすることは、国語科学習の基本であり、大変有効な設問である。常に、根拠は本文の言葉にこそ求めることが大切である。一番よく登場人物を説明していると思う言葉として、生徒が1つ選んだ言葉が、全員一致するとは限らない。登場人物にも様々な面があるのであるから、当然と言えば当然である。本文中のどの部分をとらえてその言葉を選んだのかという根拠をはっきりと示せば、それは全て正答となる。今までは、理想的な解答としてこれを選んでほしいという言葉が1つあり、そこに導くための発問を繰り返してきたように思う。1つの解答を導き出す方法を学ばせるのではなく、根拠をもとに皆で考え合う方法をこそ、学ばせていきたいものである。

ウ 登場人物に関する情報をカルタを使ってまとめるように指示している点。

「カルタ」とは、いわゆる「マインドマップ」のことである。フィンランド国語教科書の中では、多用されている方法である。初めから完成形を求めるのではなく、新たな情報が得られたら、カルタに書き足していくという方法も、生徒が安心して取り組める有効な方法である。

6 登場人物の行動の理由や変容、重要度を問う設問

- ① ～は、～によってどのように変わりましたか。なぜ、そうなったのだと思いますか。
- ② なぜ、～は～したのだと思いますか。どうやって～したのかを説明したうえで、答えなさい。
- ③ なぜ、～は、～したのですか。(なぜ、～することになったのですか。)
- ④ 下の表で、左と右の文を比べ、話にとって大事な方を選んでいきなさい。

- 4年生、5年生で問われるようになる設問である。登場人物の行動だけでなく、行動の理由や行動の変容、行動の変容の理由、物語における行動の重要度などを考えさせることで、行動の意図をとらえさせる設問である。「なぜ～したのですか。」という設問は、よくする設問であるが、物語の中のどの部分を問うかというところに、教師の力量が問われる。行動の理由が明記されている場合もあり、それを問うことも大切な読みの学習である。しかし、普通だったらこんな行動はしない、自分だったらこんな行動はしない、それなのになぜ登場人物はそのような行動をしたのかという観点で設問を作り、生徒の多様な解釈を引き出したいものである。その際も、解釈の根拠を本文の言葉に求めさせ、論理力や表現力を養っていきたい。

7 物語の空想部分を問う設問

- ① さし絵をよく見ましょう。この絵の中で、じっさいにはなさそうなことは、どれだと思えますか。また、じっさいにもありそうなことは、どれだと思えますか。
- ② この話の中で起こったできごとで、実際の世界では、ぜったいに起きないことは、何ですか。(すべて書き出さない。)
- ③ ～の登場人物や、物語の舞台についての説明のうち、明らかに空想だと分かる部分はどこですか。

- 物語の空想部分を問う設問は、日本ではあまり見られない。しかし、物語の中のできごとを実際にもありそうなこと、なさそうなことに区別することで、物語の世界を具体的にイメージすることができる。また、物語がどのように設定されているのか、型をつかむことにもつながる。日本でも、イメージを広げるため、物語の展開の型をつかむために、空想部分を問う設問を試みるのもおもしろい。

8 登場人物の心情や相互関係を問う設問

- ① なぜ、～は～したいと思ったのですか。
- ② ～は、～を、どう思っていますか。
A この話のはじめでは、どう思っているか。
B この話の終わりでは、どう思っているか。
- ③ 文中から、～が～ている部分を探しなさい。
A ～が、うらやましがっている部分。
B ～が、何か大事なことに気がついた部分。
C ～が、こわがっている部分。
D ～が、おどろいている部分。
- ④ ～が～を～ていることは、この文章の、どの部分から分かりますか。

- 登場人物の心情や相互関係を問う設問は、全ての物語教材において問われている設問ではない。しかし、登場人物がその時どのような心情であったのかについて、根拠を本文の言葉に求める設問は、大変有効な設問である。「なぜそう思ったのですか。」「～をどう思っていますか。」という設問は、本文から離れて、恣意的な考えに陥りやすい設問である。しかし、「どの部分から分かりますか。」という設問によって、考えの根拠を本文の言葉に求めることができるようになる。心情の問い方にも設問①～④のように、様々な方法がある。設問①のように、ずばりと問う設問。設問②のように、話のはじめと終わりでそれぞれどう思っているかを考えさせ、心情の変容に気づかせる設問。設問③のように、心情についての選択肢を示し、それがどこから分かるかを探させる設問。設問④のように、物語のポイントとなる登場人物の心情が、どの部分から分かるかを探

させる設問などである。これらの設問の型を生かして、物語の中の誰のどのような心情を捉えさせるのかというところが、教師の力量の問われるところであろう。

9 物語の経過時間を問う設問

① この物語のはじめから終わりまで、どのくらいの時間がかかったと思いますか。つぎの中から、えらびなさい。または、自分のことばで答えなさい。

4～5分, 2～3時間, 1日くらい, 1週間くらい, 1ヶ月くらい, 半年くらい

※ 6個の選択肢あり

② この話のはじめから終わりまで、どのくらいの時間がかかったと思いますか。

- 物語の経過時間を問う設問も、フィンランドならではの特徴的な設問である。全ての物語教材で問われる設問ではない。しかし、この設問は、物語の世界を具体的にイメージさせ、自分の身にひきつけて物語を考えさせることができる有効な設問である。3年生では、設問①のように、時間を想像する際のヒントとして、選択肢が設けられている。4年生になると、設問②のようにヒントがなくなり、自分で想像することが求められている。3年生の時の経験を生かして、4年生での学習が進められるように、設問も系統的に設定されているのである。

10 あらすじの説明を求める設問

① この物語全体を、内容を変えずに、自分の言葉でできるだけ短く書き直しなさい。または、発表しなさい。(書き始める前に、どこが話の大事なところなのかを、よく考えること。)

② この物語から好きな場面をえらび、その場面の絵をえがきなさい。クラス全員の絵を集めて、物語の内容に合うように順番をならべなさい。それらの絵を使って、この物語を発表しよう。

- 今まで行っていた「あらすじを一文でまとめなさい。」「誰が何をした話か、一文で書きなさい。」といった発問に比べて、内容を変えずにできるだけ短く書くという条件設定は、国語が苦手な生徒にとっては抵抗が少ない。フィンランド国語教科書では、特定の言葉を示し、その言葉を全て使って、できるだけ短い文を書かせる活動を行うことがある。設問①からも、ただならぬと長くあらすじを説明するのではなく、短く簡潔に説明する力を養おうとしている意図が分かる。

また、場面絵を描き、その絵を集めて物語の順番を考えさせるという活動は、生徒も興味をもって取り組むだろう。絵を描くには時間がかかるが、描いた絵を使って物語の内容を発表するという活動は、場面絵を手がかりとして物語のあらすじを説明する立派な国語科の学習である。

11 さし絵を用いた活動を求める設問

- ① さし絵を使って、この物語の内容を、順番に発表しましょう。
- ② この文章を読む前と、読んだあとで、さし絵についての理解は、どのように変化しましたか。友だちと2人で、話し合しましょう。
- ③ このさし絵の説明を、できるだけ短く書きなさい。

○ さし絵を使った設問も、フィンランドの特徴的な設問である。さし絵を使って物語の内容を説明させる設問は、説明の際に参考にするものが何もない状態より、抵抗なく取り組める有効な設問である。本文を読む前と読んだ後でさし絵の理解が変化したかどうかを問う設問は、さし絵が本文の理解を深める役割を果たしていることを示している。設問②のように、友だちと2人で話し合うという方法も、安心して抵抗なく活動に取り組める有効な方法である。また設問③も、10の設問と同様、できるだけ短く説明する論理力や表現力を養うことをねらった有効な設問である。

12 語句に関する説明を求める設問

- ① 古い物語には、よく「～」という「○○」が含まれています。この話では、どこに「～」という○○が含まれていますか。
- ② この話で使われている表現で、外国人にはわかりにくいと思うものを、少なくとも2つあげなさい。そして、外国人にもわかるように、やさしく書き直しなさい。
(参考問題)
- ③ ～とは、どのようなものだと思いますか。絵を描き、説明を書きなさい。

○ 物語の中盤から終盤にかけて問われることのある設問である。設問①は、「3」という数字が「魔法の数字」として出てくることがあることを取り上げ、物語の中でどこに「3」が出てくるかを問うた設問である。数字や色といった作品のキーワードとなるような言葉を探させ、作品を違った視点で読ませようとする方法も、有効である。設問②は、「難語句を調べなさい。」という設問に比べ、説明をする際に相手意識をもたせる有効な設問である。また、設問③は、いきなり説明しなさいという設問に比べて、描いた絵を手がかりにして説明ができるため、イメージがしやすい。生徒の想像力や説明力を伸ばす有効な設問であると言える。

13 作品の比較を求める設問

- ① この話と、「～」（作品名）を比較しなさい。同じところはどこですか。違うところはどこですか。
- ② 世界の創造についての、物語や、神話を、調べなさい。それらの内容を、「～」（作品名）の内容と、比べてみましょう。

- 日本でも、作品を比較して読むという方法がとられることがあるが、細かく分析的に読ませようとすることが多い。同じところ、違うところはどこかということから初めから問う方が、作品の共通点、相違点を大きく捉えることができる。また、日本の学習指導要領でも、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕において、小学校第1学年及び第2学年では、「昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。」を指導することになった。設問②のように、調べた物語や神話と学習した物語の内容とを比べさせる方法も興味深い。

14 物語の主題、教訓を問う設問

- ① この物語（話）は、わたしたちに、どのようなことを教えてくれているのだと思いますか。
- ② この話の教訓（わたしたちにとって教えとなること）は何だと思いますか。

- 物語の学習の中盤から後半にかけて問われることの多い設問である。物語の主題をとらえさせようとしている。「物語の主題は何ですか。」「物語を通して作者が一番言いたかったことは何ですか。」という発問に比べ、設問①、②は、国語が苦手な生徒にとっては抵抗感が少なく、答えやすい。教訓、教えとなることは何かを問うて、結果的には主題を聞いているという問い方に、学習者への配慮が伺える大変有効な設問である。

15 物語の作成、書きかえ、続きの作成を求める設問

- ① ～は、～するために、新聞に広告をのせることにしました。どういう広告をのせればいいと思いますか。広告の文章を考えましょう。～の名前、住所、電話番号も書きなさい。
- ② この物語をさんこうにして、友だちと2人で／班ごとに物語を書きましょう。物語の内容は同じまま、主人公だけを別の動物や人物にすること。物語が完成したら、人形げきにして発表しましょう。

- ③ 自分で物語を書きましょう。次の2つの問題から、1つを選んで答えなさい。
- A 「～」（作品名）の「登場人物」「場面」「できごとの順番」などを変えて、物語を書きましょう。
- B 「～」（作品名）をお手本にして、自分で新しい物語を書きなさい。
- ④ 今度は、～が～することになりました。それから、どうなるでしょう。～には何がありますか。そこで何が起こりますか。話の続きを想像して、書きなさい。または、クラスで発表しなさい。

- どの単位においても、書く活動は重視され、位置づけられている。これらの設問は、どの物語教材においても、終盤の設問として設定されている設問である。想像を生かして書く経験を積みせようとしている。これらの書く活動には、設問にも見られるように、4つの「型」がある。

- ア 状況設定を行った上で、イメージを広げて新聞広告を描く活動
- イ 物語の主人公だけを変えて、物語を作る活動
- ウ 選択肢を設け、どちらかの活動を選んで行う活動
- （ア）物語の一部を変えて物語を書き替える活動
- （イ）学習した物語を参考にして、新しい物語を作る活動
- エ 物語の続きを想像して物語を書く活動

いきなり物語を書きなさいと言われても、国語が苦手な生徒は特に困るだろう。しかし、学習した物語の一部を変更し、学習した物語を見本にして物語を書く活動は、どの生徒にも取り組みやすい。また、設問②に見られるように、自分1人ではなく、友だちと2人、または班ごとに物語を書くという方法は、生徒が安心して取り組める有効な方法である。自分だけでは思いもつかなかったようなアイデアが生まれる可能性があるという効果もある。設問③には、2つの活動の選択肢が設けられている。選択肢があることによって、活動の幅が広がり、生徒1人1人の思いや考えが反映されやすい。設問④でも、いきなり物語の続きを描きなさいと言われると難しいが、状況を設定し、その状況になった場合の続きを想像して物語を書く活動は、生徒によって取り組みやすい。いずれも物語を読んだことをもとにして書く「型」が示されている優れた設問である。これらの書く活動は、「第三の書く」で知られる青木幹勇の実践にも多く見られる。読むことを生かした書く活動を様々なバリエーションで展開したいものである。

16 物語の脚本化、音声言語化、劇化などを求める設問

- ① この物語を、ぜんぶセリフに書き直して、きやくほんにしてみましょう。声のくふうをしながら、ろく音みましょう。
- ② この話を音声げきにして、録音してみましょう。効果音を工夫すること。

- ③ 友だちと2人で、「～」（作品名）の登場人物のインタビューを演じてみましょう。一方が登場人物、もう一方が聞き手を演じること。
- ④ この話を、自分の言葉で書き直し、げきにしましょう。
- ⑤ 自分で書いた物語を人形げきか、パントマイムげき、または、かげ絵げきにしましょう。

- これらの設問のほとんどは、物語教材の学習の最後の設問である。物語を書かせるだけでなく、書かせたものを皆で交流させることをねらっている。ただ、「書いた物語を発表しなさい。」というだけではないところが、特徴的である。設問①～⑤では、以下に示す様々な活動を行うことが指示されている。また、これらの学習活動は、学習指導要領の言語活動例にも通じている。

- ア 物語の脚本化→声の工夫をしながらの録音
- イ 音声劇化→効果音を工夫しての録音
- ウ 登場人物へのインタビュー劇化（一方が登場人物、他方が聞き手。）
- エ 自分の言葉で書き直しての劇化
- オ 自分で書いた物語の人形劇化
- カ 自分で書いた物語のパントマイム劇化
- キ 自分で書いた物語のかげ絵劇化

中学校においては、各単元の配当時間が短いため、エ、オ、カ、キなどの学習活動を仕組むことは難しい。しかし、ア、イ、ウなどの活動を仕組むことは十分に可能である。物語を書き替えさせることで生徒1人1人の発想力を伸ばし、交流を通して表現力やコミュニケーション力を高め、友だちの表現のよさに学ぶ機会を中学校でも積極的に取り入れていきたい。

17 状況設定を現代に変えた場合の変化を問う設問

- ① もし現在も～があつて、～をしてくれるとしたら、どのような～が産みだされると思いますか。
- ② ～は、～するために、～しました。もし、～が、いまの時代の人物だったとしたら、どのような方法で、～することができますか。

- 物語教材の設問の中では、まれな設問であるが、着眼点がユニークで斬新な設問である。登場人物がもし現代の人であつたらどうなるかということをも具体的にイメージさせることで、発想力を養う設問である。日本ではなかなか問われない設問であるが、生徒の柔軟な思考を促すための有効な設問である。

(11) 本を読むときには

- 小学3年生、4年生のフィンランド国語教科書の最後には、「本を読むときには」と題したまとめが掲載されている。本を読むときには、どのようなことに気をつけて読めばよいのかということをもとめたもので、20項目が示されている。

日本では、「本を読みましょう。」という投げかけをしたとしても、「本を読むときには、このようなことに気をつけて読みましょう。」という投げかけはほとんどなされていないのではなかろうか。自分自身は、できていなかった。

フィンランド国語教科書のこの「本を読むときには」の20項目は、大変具体的である。しかも、気をつけさせたいことを教科書の設問の形で具現化し、子ども達に授業の中で実際に考えさせ、体験させている。単なる理想の投げかけではないところが、魅力的である。「本をよむときには」と題したまとめの20項目が、フィンランド国語教科書の物語教材におけるどの設問と関連があるのかを以下に示す。

※ () 内は、フィンランド国語教科書の物語教材における設問番号との関連を示す。

- 1 物語の主人公、場所、時間に注目しよう。(設問1, 2, 9)
- 2 あらすじを自分のことばでまとめよう。(設問10)
- 3 作者のいいたいことは、何かな?(設問14)
- 4 主人公は、何をやりたいのかな?何をやりたくないのかな?なぜやりたくないのかな?(設問3, 4, 6)
- 5 登場人物で、いちばん好きな人はだれかな?どうして好きなのかな?(設問1)
- 6 登場人物と同じようなけいけんをしたことはあるかな?(設問1, 3, 4)
- 7 何か登場人物にいいたいことはないかな?(設問4, 16)
- 8 本の内容をもとにして、質問を考えよう。(設問16)
- 9 本に書かれていたことで、いちばん興味を持ったことは、何かな?(設問1)
- 10 本に書かれていたことで、これからずっとおぼえていそうなことはあったかな?
- 11 物語の続きを考えてみよう。(設問15)
- 12 物語から好きな場面をえらび、絵をえがいてみよう。(設問10)
- 13 絵に説明をつけてみよう。(設問10, 11)
- 14 物語の登場人物にインタビューしてみよう。(設問16)
- 15 物語の登場人物、場所、時間などを、ちょっと変えてみよう。(設問15)
- 16 時間・場所・人物をあらわすことばに注目しよう。(設問1, 2, 5, 8, 9)
- 17 登場する人物の名前を書き出そう。(設問1)
- 18 意味のわからないことばを書き出そう。(設問12)
- 19 心に残ることばを書き出そう。
- 20 作文を書くときに使えそうなことばを書きだそう。

以上の通り、「本を読むときには」の20項目と物語教材における設問とは、ほとんどが合致している。本を読むときに気をつけさせたいことは、普段の授業の中で設問として考えさせ、気をつけさせているのである。

(12) 議論のルール

- フィンランド国語教科書には、様々な教材において「友だちと2人で／または班で話し合ってみましょう。」という設問が設定されている。物語教材の設問においても、設問15、16に見られる通りである。日本でも、ペア活動やグループ活動などは、学習形態としてよく用いられる。しかし、どのようなルールに従って議論をさせていくかということについては、教師によって示し方がそれぞれである。

フィンランド国語教育においては、ペア学習やグループ学習における議論のルールがはっきりと示されている。いずれも話す・聞く態度として大変基本的なことである。しかし、それをルールとして明確に示し、子どもたちに話し合う際の「型」として常に体験させているところが、日本とは違う。この方法は、話す・聞く態度を系統的に育成する方法として、大変有効である。ぜひ活用したい。

議論のルールについては、小学校3年生、5年生の教科書に、それぞれ明示されている。小学校3年生の教科書では、「話し合いのやりかた」「じょうずに話を聞くには」として示され、小学校5年生の教科書では、「話し合いのてびき」「話を聴くときのてびき」として示されている。

「話し合いのやりかた」「話し合いのてびき」

- ① はっきりと、大きな声で、できるだけ短くしゃべりましょう。(3年)
はっきりと、できるだけ短く、よく聞こえるように話しましょう。(5年)
- ② 意見を言ってもいいのは、話し合いをしているときだけです。話し合いが終わってから、意見を言うてはいけません。(3年)
意見を言ってもいいのは、話し合いの時だけです。話し合いが終わってから、自分の意見を言うてはいけません。(5年)
- ③ 何を話し合っているのか、忘れないようにしましょう。(3年)
話し合いのテーマを忘れないようにしましょう。(5年)
- ④ 分からないことがあったら、すぐに質問しましょう。(3年)
相手の言うことが理解できなかつたら、かならず質問しましょう。(5年)
- ⑤ 自分とは違う考えかたも、尊重しましょう。(3年)
自分とは違う考え方も、尊重しましょう。(5年)

「じょうずに話を聞くには」「話を聴くときのてびき」

- ① 話している人の目を見ましょう。(3年、5年)
- ② 話を聞くことに集中しましょう。ほかのことをしながら聞いてはいけません。(3年)
話を聴くことに集中しましょう。ほかのことをしながら聴いてはいけません。(5年)
- ③ うなずいたり、あいづちをうったりしながら、聞きましょう。(3年)
うなずいたり、軽くあいづちをうったりしながら、聴きましょう。(5年)
- ④ 最後までちゃんと話を聞きましょう。(3年)
最後まで、きちんと話を聴きましょう。とちゅうでさえぎってはいけません。(5年)

以上の通り、小学校3年生では「話を聞く」、小学校5年生では「話を聴く」など、学年の発達段階に応じて表現が多少変わっている部分もあるが、基本的には話すことに関するルールが5つ、聞く（聴く）ことに関するルールが4つ示されている。いずれも、基本的なルールであるが、グローバルコミュニケーション力を培う基礎として、生徒1人1人にぜひ身につけさせたい態度である。

3 日本の新学習指導要領とフィンランド国語教育

(1) 日本の新学習指導要領

- 新学習指導要領においては、PISA調査など各種の調査から、「思考力」「判断力」「表現力」等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られたことが指摘されている。その課題を受けて、「知・徳・体のバランス」とともに「基礎的・基本的な知識・技能・思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視」し、これらを「調和的にはぐくむことが必要である」と指摘されるようになった。

新学習指導要領に示された「書くこと」の指導に相当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間30～40単位時間程度、第3学年では年間20～30時間程度である。ちなみに、「話すこと・聞くこと」の指導に相当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間15～25単位時間程度、第3学年では年間10～20時間程度となっている。「話すこと・聞くこと」の指導が重視されているものの、年間の配当時数としては、「書くこと」の指導に当てる時間の方が、どの学年も多い。言語活動が重視されるようになり、「読むことを生かした書く活動」「書くことを生かした読む活動」といった言語活動を取り入れることを目指した授業改善が求められるようになった。

しかし、教師は、言語活動例に示されたような活動をただ生徒にさせればよいというわけではない。楽しければよいという活動でもだめである。大村はま氏は、著書『日本の教師に伝えたいこと』の中で、「楽しくやれたらいいというものでもないのです。なんの学力もつかないのでは、それは単なる生活の断片というわけで、学習生活の断片ではありません。」と述べている。

必然性、有用性ももてるような活動を行うことで力をつけ、なおかつその活動は楽しいものでありたい。

ここで、新学習指導要領に示された物語教材の学習における指導事項、言語活動例と、フィンランド国語教育との接点を見てみたい。

(2) 物語教材における指導事項、言語活動例とフィンランド国語教育との接点

- 新学習指導要領における物語教材に関連する指導事項と言語活動例を以下に挙げてみた。これらの指導事項、言語活動例と、フィンランド国語教育との接点を見るために、フィンランド国語教科書の物語教材における設問番号を該当箇所の括弧内に示した。

※ () 内は、フィンランド国語教科書の物語教材における設問番号を表す。

① 小学校学習指導要領

- 各学年における「B書くこと」の指導事項
 - ・ 交流に関する指導事項
 - ・ 第1学年及び第2学年
オ 書いた物を読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。(設問16)
 - ・ 第3学年及び第4学年
カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。(設問16)
 - カ 書いた物を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。(設問16)
- 各学年における「B書くこと」の言語活動例
 - ・ 第1学年及び第2学年
ア 想像したことなどを文章に書くこと。(設問15)
 - ・ 第3学年及び第4学年
ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。(設問15)
 - ・ 第5学年及び第6学年
ア 経験したこと、想像したことをなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。(設問15)
- 各学年における「C書くこと」の指導事項
 - ・ 文学的な文章の解釈に関する指導事項
 - ・ 第1学年及び第2学年
ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。(設問6)
 - ・ 第3学年及び第4学年
ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。(設問8)
 - エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。(設問5, 6, 7, 8)
- 各学年における「C読むこと」の言語活動例
 - ・ 第1学年及び第2学年
ア 本や文章を読んだり、想像を広げたりしながら読むこと。
(設問8, 9, 14, 17)
 - イ 物語の読み聞かせを聞かせたり、物語を演じたりすること。(設問16)
 - エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。
(設問15)
 - オ 読んだ本について、好きなどを紹介すること。(設問15)
 - ・ 第3学年及び第4学年
ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。(設問16)
 - ・ 第5学年及び第6学年
ア 本を読んで推薦の文章を書くこと。(設問15)

② 中学校学習指導要領

○ 各学年における「B書くこと」の指導事項

・ 交流に関する指導事項

・ 第1学年

オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。(設問16)

・ 第2学年

オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。(設問16)

・ 第3学年

エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。

(設問16)

○ 各学年における「B書くこと」の言語活動例

・ 第2学年

ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をつくったり物語などを書いたりすること。

(設問15)

○ 各学年における「C読むこと」の指導事項

・ 文章の解釈に関する指導事項

・ 第1学年

ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

(設問2, 5)

・ 第2学年

イ 文章全体と部分との関係、例示や描写などの効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。(設問6)

・ 第3学年

イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。(設問3, 4, 5, 6, 8)

○ 各学年における「C読むこと」の言語活動例

・ 第1学年

ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。(設問16)

・ 第2学年

ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

(設問16)

・ 第3学年

ア 物語や小説などを読んで批評すること。(設問6, 16)

- 上記に示した通り、物語教材の学習における指導事項、言語活動例は、小学校、中学校、いずれの学年においても、フィンランド国語教育で行われている活動と合致している。つまり、フィンランド国語教科書に明示されている設問を生かした活動を行うことは、日本において言語活動を通して指導事項を指導するということと、同じであると言える。

(3) 1単位時間の授業の在り方

- 授業は、楽しいものでありたい。授業に楽しさがあり、力つけば、生徒の学ぶ意欲も伸ばすことができるであろう。フィンランド国語教育はまさに、学び方の「型」を教え、学ぶ楽しさを体験させるといった積み重ねによって、1人1人の子どもに力をつけていると言える。

国語を学ぶ楽しさが実感できるかどうかは、1単位時間の授業の在り方が大きく関わってくる。どのようなねらいのもと、どのような活動をし、どのような力をつけさせることができるかという積み重ねが、学ぶ楽しさの実感につながっていき、学ぶ意欲を喚起していく。

フィンランド国語教科書には、各単元に設問が明示されているが、1単位時間の中で、どの発問をもとにした活動をどのくらい時間をかけて行うのか、単元全体にどのくらい時間をかけて行うのかについては、明示されていない。

そこで、フィンランド国語教科書に見られる「読むための型」を用いた授業を日本で行うとしたら、どのようになるかをイメージするため、中学2年生の「走れメロス」という単元を取り上げ、その発問計画を立てることを試みた。

(4) 中学2年「走れメロス」の指導における発問、指示計画

時数	A 今までの実践における発問、指示	B 「読むための型」を生かした発問、指示
1時	<p>① 私が一度読みます。分かりにくい漢字にはふりがなを打ちながら聞きなさい。</p> <p>② 登場人物を全てあげなさい。</p> <p>③ 主人公は誰ですか。</p> <p>④ 誰が何をするとどんな話か、一文で書きなさい。</p> <p>⑤ この話には、4つの場面があります。第1場面はどこまでですか。第2場面はどこまでですか。第3場面はどこまでですか。</p> <p>⑥ 話のおおまかな流れを整理します。ワークの初めの部分をやりなさい。</p>	<p>① 私が一度読みます。分かりにくい漢字にはふりがなを打ちながら聞きなさい。</p> <p>② 主人公は誰ですか。なぜそう思うのですか。</p> <p>③ わき役は誰ですか。全てあげなさい。物語が展開する上で、一番大事なわき役は誰ですか。なぜそう思うのですか。</p> <p>④ この話には、4つの場面があります。それを全て、「～で～する場面」という形で、順番に短くまとめなさい。</p> <p>⑤ 話のおおまかな流れを整理します。ワークの初めの部分をやりなさい。</p>

- 第1時は、作品との初めての出会いの時間である。中学校段階においても、音読にはしっかりと取り組ませたい。そのために、指示①では、今後の学習において自分で本文を読むとき、国語が苦手な生徒でも安心して読めるようにさせるための活動を入れた。今までの実践では、Aの発問②、③のように、答えが決まっている発問については、「なぜそう思うのですか。」というところまでは問わなかった。しかし、どんな設問においても意見の根拠を述べさせることを大切にしているフィンランド国語教育の方法にならって、今後の実践では、Bの発問②、③のように根拠まで問い、考えさせることで論理力や表現力を養っていききたい。また、今までの実践では、Aの発問④のように、初読後にすぐあらすじを一文でまとめさせる活動をさせた後に、発問⑤のように、場面分けの活動をさせていた。今後は、Bの発問④のように、場面をまとめさせる発問を行い、あらすじの把握は学習をある程度進めた後の5時間目に行うこととする。場面の展開をとらえさせる際、フィンランド国語教科書には、「～で～する場面」という形のまとめさせ方はないが、答え方の基本を学ばせるために、答え方の型を与えてみたい。その際、第1場面は、生徒に問いかけながら一緒に作ってみる。例えば、「王城でメロスが王と言いつ争う場面」というようにまとめる。このようなまとめ方の「型」に沿って、第2～4場面を考えさせ、与えた型を生かして表現させることで、表現力を養っていききたい。

時数	A 今までの実践における発問、指示	B 「読むための型」を生かした発問、指示
2時	① 第1場面を音読しなさい。 ② メロスはどんな人物ですか。それが分かる言葉を本文中から抜き出さなさい。 ③ メロスはなぜ王城に行ったのですか。 ④ 王はどんな人物ですか。それが分かる言葉を本文中から抜き出さなさい。 ⑤ 王はなぜ、ほくそえんだのですか。 ⑥ メロスと王で対比されていることを書き出さなさい。	① 第1場面を音読しなさい。 ② 第1場面で主人公は、どんな問題のために困っていましたか。 ③ その問題は、どうやって解決しようと思いましたか。その方法をどう思いますか。 ④ メロスと王は、それぞれどのような人物ですか。それぞれ当てはまるものを次から全て選びなさい。または、自分で適当な言葉を考えなさい。 ⑤ メロスだけを一番よく言い表している言葉はどれですか。第1場面のどの部分を読んで、その言葉を選びましたか。 ⑥ 王だけを一番よく表している言葉はどれですか。第1場面のどの部分を読んで、その言葉を選びましたか。

- 第1場面は、物語の中で問題が発生する場面である。第2時においても、指示①は必ず行い、音読を通して第1場面の内容を想起させたい。今までの実践では、Aの発問②、③、④、⑤のように、人物像が分かる表現を抜き出させたり、登場人物の行動の理由を考えさせることが多かった。しかし、今後の実践では、Bの発問②、③のように、物語の中で起こった問題と問題の解決方法をまず把握させたい。Bの発問②、③は、フィンランド国語教科書でよく問われる典型的な設問である。問題とその解決方法をはっきりさせることで、物語の展開の契機をつかませたい。また、その解決方法を自分はどう思うかという発問を行うことで、表現力や批判的思考力を育てたい。Bの発問④、⑤、⑥も、フィンランド国語教科書の特徴的な設問である。今まで、人物像を表す言葉を例として示したことはあっても、選択肢を示したことはなかった。人間のよい面と悪い面の両面をバランスよく取り入れたような選択肢を用意し、言葉を根拠にさせながら生徒1人1人の解釈の違いを話し合わせ、批判的思考力やコミュニケーション力を高めていきたい。

時数	A 今までの実践における発問、指示	B 「読むための型」を生かした発問、指示
3時	<p>① 第2場面を音読しなさい。</p> <p>② 「未練の情」とはどんなものですか。「未練の情」は、本文のどの部分に表れていますか。</p> <p>③ 「婿をなだめ、すかして、説き伏せた。」とありますが、メロスは花婿にどのような話をしたと思いますか。想像して書きなさい。</p> <p>④ 「自分の身体で、自分のものではない。」とは、どういうことですか。</p> <p>⑤ 寝坊したかと焦ったメロスが、悠々と身支度を始めたのはなぜですか。</p>	<p>① 第2場面を音読しなさい。</p> <p>② 「未練の情」とはどんな思いですか。小学生にも分かるように、やさしく言い換えなさい。メロスが「未練の情」をもっていることは、どの部分から分かりますか。</p> <p>③ メロスが妹を大切に思っていることは、どの部分から分かりますか。</p> <p>④ なぜメロスは、花婿に「メロスの弟になったことを誇ってくれ。」と言ったのだと思いますか。どうしてそう思ったのですか。</p> <p>⑤ 出発の朝、悠々と身支度をはじめたメロスが、「矢のごとく走り出た」のはなぜだと思いますか。どうしてそう思ったのですか。</p>

- 第2場面は、事件の解決を図るために、下準備をする場面である。今までの実践で行ってきた発問には、これといった「型」があったわけではない。自分が教材のポイントであるところとらえた部分を読み取らせるために、自分で考えてきた我流の発問である。Aの発問②は心情の根拠部分を捉えさせる発問、③は主人公の言動を想像させる発問、④は言葉の意味を考えさせる発問、⑤は主人公の行動の理由を考えさせる発問である。主人

公の言動ががらっと変わった部分とそのきっかけをつかませることを意識して発問を行ってきたつもりであったが、発問に系統性がなく、他の学習とのつながりもほとんどなかった。

今後の実践では、フィンランド国語教科書に見られる「読むための型」にしたがって、系統性や他の学習とのつながりを意識したバランスのよい発問を行っていきたい。Bの発問②は、言葉の意味を考えさせ、心情の根拠部分を問う発問であるが、今までの発問と違うところは、説明する相手を意識した言葉の言い換えをさせている点である。言葉の意味は、自分だけが分かればよいのではない。言葉を使ってコミュニケーションを行う限りは、相手に分かるように伝えるという意識を持たせなければならない。今までの実践では、この視点も大きく欠けていた。発問②は、「小学生にも分かるように」という設定にしたが、様々な設定の仕方でも相手意識をもたせていきたい。このようにして、言葉の意味が分かる生徒ではなく、言葉の意味が説明できる生徒を育成していきたい。発問③は心情の根拠部分、④、⑤は主人公の言動の理由を問う発問である。いずれも、「どの部分から分かりますか。」「どうしてそう思ったのですか。」という意見の根拠を述べさせることを通して、論理力や表現力を伸ばしていきたい。日本では、教科書に発問が掲載されているわけではない。「読ませるための型」にあてはめた上で、本文中のどこを問うかが教師の腕のみせどころであろう。

時数	A 今までの実践における発問、指示	B 「読むための型」を生かした発問、指示
4時	<p>① 第3場面を音読しなさい。</p> <p>② 濁流を目の前に、「泳ぎきるよりほかにない。」とメロスに覚悟させたものは何だったのでしょうか。</p> <p>③ 濁流を泳ぎきり、山賊を打ち倒してここまで突破してきたメロスが、あきらめかけたのはなぜですか。</p> <p>④ 「夢から覚めたような気がした。」とありますが、メロスの気持ちを変えたものは何ですか。</p> <p>⑤ 好きな表現を見つけて、抜き出さない。</p>	<p>① 第3場面を音読しなさい。</p> <p>② メロスは、第3場面でどんな問題にぶつかりますか。それをすべて書き出さない。</p> <p>③ 濁流を泳ぎきり、山賊を打ち倒してここまで突破してきたメロスが、あきらめそうになったのはなぜですか。どうしてそう思ったのですか。</p> <p>④ メロスはどのくらいの時間、あきらめかけていたのだと思いますか。次の中から選びなさい。または、自分で考えなさい。</p> <p>⑤ 「夢から覚めたような気がした。」とありますが、メロスの気持ちを変えたものは、何だったと思いますか。それはどこから分かりますか。</p>

- 第3場面は、問題の解決が失敗に終わりそうになったが、再び挑戦する場面である。今までの実践では、Aの発問②、④のように主人公の心情の変化をとらえさせる発問、③のように、主人公の行動の理由をとらえさせる発問を行うことが多かった。また、この場面は、登場人物の心情や情景の描写が巧みで、リズムもよく、読者が引き込まれやすい場面であるため、発問⑤のように、好きな表現を抜き出させる活動を行うことが多かった。今後の実践では、Bの発問②のように、いくつもの問題を解決しようともがいてきた主人公をとらえさせるために、フィンランド国語教育の典型的な発問の1つを用い、ここでもう一度、主人公がどんな問題で困っているのか、いくつ問題が出てきたのかをとらえさせたい。また、発問③では、いくつもの問題を解決してきたにもかかわらず、あきらめそうになった主人公の人間らしい姿をとらえさせたい。発問④も、フィンランド国語教育の典型的な発問の1つである。あきらめかけていた時間を具体的に想像させることにより、主人公を物語の中の架空の人物ではなく、身近な存在としてとらえさせることができるのではないだろうか。発問⑤では、メロスの気持ちちがらっと変わった部分に注目させ、その心情の変化のきっかけを具体的にとらえさせることで、論理力や表現力、発想力を養っていききたい。

時数	A 今までの実践における発問、指示	B 「読むための型」を生かした発問、指示
5時	<p>① 第4場面を音読しなさい。</p> <p>② あなたがフィロストラトスだったら、メロスにどのように声をかけますか。</p> <p>③ ほおを殴り合ったメロスとセリヌンティウスが抱き合い、声を放って泣いた時、それぞれどのような思いだったでしょうか。想像して書きなさい。</p> <p>④ 「おまえらは、わしの心に勝ったのだ。」とは、どういうことでしょうか。考えて書きなさい。</p> <p>⑤ この話で作者が最も伝えたかったことは何ですか。考えて書きなさい。</p>	<p>① 第4場面を音読しなさい。</p> <p>② フィロストラトスが、「走るのはやめてください。」と言ったことをどう思いますか。なぜそう思うのですか。</p> <p>③ 王様の申し出をどう思いますか。なぜそう思うのですか。</p> <p>④ この話の全体を、短く書き直しなさい。</p> <p>⑤ この話は、私達にどのようなことを教えてくれているのだと思いますか。</p> <p>⑥ ワークでまとめなさい。</p>

- 第4場面は、問題が解決する場面である。今までの実践では、Aの発問②、③、④のように、自分だったらどうするかということを考えさせたり、登場人物の心情を想像させたり、言葉の意味を考えさせたりすることが多かった。改めて発問を書き出してみると、自分の解釈で自由に発言すればよい発問が多く、自分の意見の根拠を述べさせる機会が少なかったことが分かった。Bの発問②、③は、登場人物の言動を自分はどう思う

かという意見を述べさせる発問である。自分の意見を述べさせる際は、「なぜそう思うのか。」という根拠をしっかりとあげさせ、論理力や表現力を養っていきたい。また、Bの発問④は、あらすじをまとめさせるための発問であるが、今までは第1時で行っていた発問を第5時にもってきた。話の全体像をふまえて短く書き直す活動は、学習が始まって5時間目のこの時間にこそ、スムーズに取り組むことができるであろう。Bの発問⑤は、フィンランド国語教科書の典型的な発問の1つである。Aの発問⑤のような問い方をすることが多かったが、Bの発問⑤のような問い方をすることで、生徒の抵抗感は軽減されるのではないかと予想される。発問における問い方、言葉の選び方1つで、生徒の受け止め方が変わってくるというよい例である。教師のねらいのもとに行う発問は、いつでも生徒にとって思考しやすい発問でありたい。

時数	A 今までの実践における発問、指示	B 「読むための型」を生かした発問、指示
6時	① ワークを解きます。難しそうな問題だけ、一緒にやります。 ② あとの問題は、自分でやりなさい。	① 友だちと2人で、メロス、セリヌンティウス、ディオニスから1人選び、この日の日記を書きなさい。 ② 書いた日記を隣同士で読んで、よいところとよくないところを2つずつ見つけて、書きましょう。 ③ 書いた日記を発表しましょう。

- 今までの実践では、少しでも問題を解く力を伸ばしたいと考えるあまり、副教材のワークを使用したテスト問題の解法を教授する授業が多くなっていった。この点を大いに反省しなければならない。生徒に育てたい力のとらえ方が狭いと、グローバルコミュニケーション力は育たない。テストで点数を取れる生徒を育てたいのではない。言葉を根拠に確かに読み取り、豊かに表現できる生徒、根拠を挙げて意見を述べ合える生徒を育てたいのである。したがって、各単元の学習のまとめの段階では、問題の解法の教授ではなく、バラエティに富んだ言語活動を行いたい。

フィンランド国語教育では、まとめの段階で物語の作成や書き替え、物語の脚本化や劇化などの言語活動をさせることが多い。今後の実践では、フィンランド国語教育でも重視されている「書く活動」に力を入れ、様々な機会をとらえて、日常的に書く経験を積ませていきたい。Bの発問①では、3人の登場人物のうちから1人を選び、最後の場面の日の日記を書かせる活動を考えてみた。生徒達は、最後の場面のあと、この日を振り返って書く日記の中で、物語の中でできごとを振り返りながら、それぞれの登場人物になりきって、思いをつづるであろう。発問②では、フィンランド国語教育の中で行われているペア学習、グループ学習の手法を使っている。『図解 フィンランド・メソッド』（北川達夫&フィンランド・メソッド普及会）には、次のように述べられている。「ここからが班活動の真骨頂です。完成した作文を班員それぞれが読みます。そして、それぞれが作文の『いいところ』と『悪いところ』を10個ずつ挙げるのである。班員が

4人だとすると、書き手を除く3人がこの作業をしますので、『いいところ』と『悪いところ』を30個ずつ集まります。それから、全員で話し合っ、て、『いいところ』と『悪いところ』を10個ずつにしぼりこむのです。書き手は『悪いところ』を改善しつつ、全文を書き直します。」

このような方法で、班活動を機能的に活用し、各人の書く力や批判的思考力を高めていくのである。フィンランド国語教育での推敲の作業は、これで終わりの場合もあるが、となりの班、または他の全ての班に作文を渡して同じ作業をしてもあうこともあるのだという。そのたびに書き直すのであるから、書き手も大変であるが、力は確実に伸びて行くであろう。

中学校で実践を行う場合、この推敲作業を繰り返すことは、学習時間の制限上、難しい。ここでは「よいところとよくないところを2つずつ見つけて、書きましょう。」という指示に変えた。発問③では、全員の日記を発表させることは難しいが、時間の許す限り発表させ、交流を図りたい。また、書いた作品を学級ごとにファイルに綴じて教室に保管し、いつでも誰でも他の生徒の作品が閲覧できるようにしていきたい。年度末には、全ての作品を個人に返却し、学習のあしあとが各自のファイルに残るようにしていきたい。

今まで授業の中で取り組んできたワークであるが、今後は宿題として取り組ませて提出させ、ワークを返却する際に、必要最小限の解説を加えるようにしていきたい。

(5) 「読むための型」がある場合とない場合の違い

- 今までの実践における発問と、フィンランド国語教科書の物語教材を「読むための型」に従った発問を比べると、様々な点に違いが生じることが分かった。「読むための型」がある場合、以下の3つの利点があると考えられる。

- ・ 設問に「型」があるため、話す・聞く、書く、読むといった学習活動のバランスが取りやすい。
- ・ 設問に「型」があるため、似たようなパターンの設問を重複して問うことが少なくなり、設問構成のバランスが取りやすい。
- ・ 自分はどう考えたのか、なぜそう考えたのかということを、言葉を根拠に述べ合う「意見+理由」型の設問であるため、一つの解答を導き出すための学習ではなく、考えるための学習を仕組みやすい。

この利点を生かし、様々な物語教材において「読むための型」に基づいた適切な設問を作り、グローバルな視点に立った国語の力を生徒1人1人に身につけさせていきたい。

(6) フィンランド国語教科書の物語教材における設問パターン一覧表

- 物語教材の発問を作る際に「読むための型」の設問パターン一覧表のようなものがあれば、発問が作りやすいのではないかと考えた。フィンランド国語教科書の物語教材における「読むための型」のパターンをもとに、「物語教材設問パターン一覧表」を作った。参考資料（資料2-1～3）として後に示す。

4 成果と課題

- テストで点数が取れる生徒を育成することが目的ではない。グローバルコミュニケーション力を育成することが目的である。「答えを見つけ出すこと」ではなく、「生徒に考えさせること」こそが大切なのである。教科書は「解答を出すため」ではなく、「考えるため」にこそ存在するのであるということが、改めて分かった。

フィンランド国語教科書の物語教材の設問に着目し、分類、整理することによって、物語を「読むための型」に気づくことができた。また、フィンランド国語教科書の物語教材の設問と日本の新学習指導要領の物語教材に関わる指導事項、言語活動例とを照合することによって、フィンランド国語教育が目指しているグローバルコミュニケーション力を身につけさせることは、日本の学習指導要領に示されている目標を達成していくことにもつながるということが分かった。中学2年生の教材「走れメロス」の発問計画を作成し、今までの実践における発問と「読むための型」を生かした発問を比較することにより、「読むための型」があった場合の利点を把握することができた。物語教材における設問パターン一覧表を作成することによって、現場での実践に生かす準備もできた。フィンランドの教育方法を学ぶことにより、自分の授業の在り方を見つめ直すことができたことが、何よりである。

読解の授業を軽視し、劇やペーパーサートといった活動ばかりを重視した結果が、読解力の低下を招いたのではないとも言われている。しかし、最も大きな問題は、本質的な意味で、学び方を学ばせていないということにあるのではないかと考えるようになった。それは何と言ってもまず、授業の中核ともなる発問に、しっかりとした学ばせ方の「型」がないということに尽きるのではないだろうか。文章を書くために、「文章の書かせ方の型」が存在するように、「文章の読ませ方の型」も存在するはずである。フィンランド国語教育との出会いによって、やっとそのことに気づくことができたように思う。

まだまだ、自分自身の学びは始まったばかりである。物語教材における「読むための型」について研究を進めてきたが、他のジャンルにおいても設問を分類、整理し、それぞれのジャンルにおける「読むための型」を導き出していく必要がある。また、それを実践で検証し、よりよい「学ぶための型」を模索していくことが今後の課題である。そのためにも、フィンランドだけではなく、他国や自国の国語教育の研究、実践についても幅広く学び、グローバルな視点に立った国語教育の在り方を模索していかなければならない。

おわりに

- 派遣研修のチャンスに恵まれ、大学で研修させていただくことになってから、学ぶことの楽しさ、大切さを改めて実感することができ、心から感謝している。生徒に学んでほしいと願うなら、自分が学び続ける存在でなければならないということも改めて分かった。

それまでは、中学校の一国語教師として、「自信をもって県立高校の受験ができる生徒、問題をすらすら解くことのできる生徒を育成したい。そのためには、分かる楽しさ、できる楽しさを味わわせなければならない。ならば、読解指導に力を入れ、どのような問題でもまず、しっかりと読めてしっかりと解ける力をつけさせたい。」と考えていた。しかし、フィンランドの国語教育に出会うことによって、自分の考え方は大きく変わった。この半

年間で、「学ぶための型を学ばせることによって、国語の学び方が分かる生徒を育成したい。文章や言葉のおもしろさを知り、国語を学ぶことがおもしろい、楽しい、好きであるという生徒を育成したい。自分の考えを話したり他人の考えを聞いたりすること、文章を読んだり書いたりすることの楽しさを生徒に味わわせたい。」と考えるようになった。

また、フィンランド国語教育について研究を進める中で、これまでの日本の教育にも目を向けたいと思うようになった。派遣研修の中で注目した青木幹勇の実践もその1つである。授業の中に視写や書き込みを取り入れ、「書くこと」を通して自主的な子どもの学習活動を保障することを試みた青木氏の実践は、フィンランド国語教育に大に通じるところがあり、今なお新しく、魅力的である。物語の続きを書く、登場人物になりきって日記を書く、登場人物への手紙や登場人物からの手紙の返事を書く、物語を詩や俳句に書き替える、登場人物にインタビューするなどの学習活動は、昭和の時代に青木氏が、信念をもって行っていた実践の一部である。国語教師として、もっともっと知らなければならないこと、学ばなければならないことがある。

国語教育に対する考え方が大きく変わったこと、自ら学ぶ楽しさを改めて知ったことが、この研修での最も大きな収穫である。

最後に、フィンランド国語教育に出合わせてくださり、遅々として研究の進まない私を、最後まで温かく見守り、優しく励まし、適切なアドバイスをしてくださった菅先生に、心から感謝いたします。また、楽しく発見の多い講義でたくさんの刺激を与えてくださった諸講義担当の先生方、笑いの絶えない昼食時間で元気をわけてくれた研究生の仲間達、このような学びのチャンスをくださった県教育委員会、楽しい会話で心を和ませてくれた宮崎大学の学生達、温かい言葉をかけてくださった校長先生をはじめとする西都市立三財中学校の先生方、生徒達、保護者の皆様、励まし続けてくれた家族、支えて下さった全ての方々に、心から感謝いたします。ここでできたつながりを今後も大切にしていきます。

今回の研修を契機として真摯に学び続け、学校のため、生徒達のために一生懸命尽力することで、恩返しをする所存です。本当にありがとうございました。

引用文献, 参考文献

- 1) メルヴィ・バレ/マルック・トッリネン/リトバ・コスキパー著 北川達夫&フィンランド・メソッド普及会訳・編「日本語翻訳版フィンランド・メソッド5つの基本が学べるフィンランド国語教科書 小学3年生」経済界
- 2) メルヴィ・バレ/マルック・トッリネン/リトバ・コスキパー著 北川達夫&フィンランド・メソッド普及会訳・編「日本語翻訳版フィンランド・メソッド5つの基本が学べるフィンランド国語教科書 小学4年生」経済界
- 3) メルヴィ・バレ/マルック・トッリネン/リトバ・コスキパー著 北川達夫&フィンランド・メソッド普及会訳・編「日本語翻訳版フィンランド・メソッド5つの基本が学べるフィンランド国語教科書 小学5年生」経済界
- 4) 北川達夫&フィンランド・メソッド普及会「図解 フィンランド・メソッド入門」経済界
- 5) ヘイッキ・マキパー「平等社会 フィンランド教育が育む未来型学力」明石書店
- 6) 文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」（平成20年8月）
- 7) 文部科学省「中学校学習指導要領解説国語編」（平成20年9月）
- 8) 大村はま「日本の教師に伝えたいこと」筑摩書房
- 9) リッカ・パッカラ「フィンランドの教育力」学研新書
- 10) オッリペッカ・ヘイノネン+佐藤学「オッリペッカ・ヘイノネン 『学力世界一』がもたらすもの」NHK出版
- 11) 堀内都喜子「フィンランド豊かさのメソッド」集英社新書
- 12) 福田誠治「競争やめたら学力世界一 フィンランド教育の成功」朝日新聞社
- 13) 増田ユリヤ「教育立国フィンランド流 教師の育て方」岩波書店
- 14) 実川真由 実川元子「受けてみたフィンランドの教育」文藝春秋
- 15) 福田誠治「子どもたちに『未来の学力』を」東海教育研究所

フインランド語教科書小学3～5年 設問分類表 資料1-1

学 部	単元名	ジャンル	設問のねらい	設 問	問題 種別	回答の形式	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
3	2 物語「カラスとじょうろ」	物語	主人公の把握	1 この物語には、ひとりの主人公がいます。主人公はだれですか。つぎの書き出しに続くように書きなさい。 「この物語の主人公は・・・」	基本	記述 (書き出しあり)	情報の取り出し
3	2 物語「カラスとじょうろ」	物語	主人公の把握	1 この物語の主人公はだれですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
3	2 物語「ライオンとネズミ」	物語	主人公の把握	1 この物語の主人公はだれですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
3	3 物語「クマの子」	物語	主人公の把握	1 この物語には、2人の主人公がいます。だれと、だれですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
3	5 物語「くらのとびら」	物語	主人公の把握	1 この話には、3人の登場人物がいます。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2 物語「カラスのチーズ」	物語	主人公の把握	A 主人公はだれですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2 物語「カラスのチーズ」	物語	わき役の把握	B わき役はだれとだれですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2 物語「カラスのチーズ」	物語	主人公の把握	1 この話には、2人の主人公がいます。だれとだれですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2 物語「おれは幸運を手にし、悪いのははじめたる」	物語	わき役の把握	2 この話には、たくさんのわき役が出てきます。わき役をすべて書き出しなさい。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2 物語「おれは幸運を手にし、悪いのははじめたる」	物語	主人公の把握	1 この話の主人公はだれですか。この話のわき役を、すべて書き出しなさい。	基本	記述	情報の取り出し
4	2 物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	登場人物の把握	2 この話の登場人物で、ほかの物語にもよく出てくる人たちはだれですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	4 5 物語「井戸で糸をつむぐ娘たち」	物語	主人公、わき役の把握	1 この話の主人公はだれですか。わき役はだれですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	5 物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	主人公、わき役の把握	1 カレヴァラの登場人物の中から、それぞれあてはまる人物を書きなさい。 a 支配者 b 若者 c 老人	基本	選択肢 選択肢 選択肢	解釈 解釈 解釈
5	5 11 カレヴァラとポホヨラー二つの世界	物語	人物像の把握	1 次の人物について、説明しなさい。 a イルマタラ b アンテロ・ヴィブネン	基本	口答または記述	解釈
5	5 11 カレヴァラとポホヨラー二つの世界	物語	人物像の把握	2 カレヴァラの登場人物のうち、あなかもっとも興味を持った人物は、だれですか。なぜ興味をもったのが、理由も書きなさい。	基本	口答または記述	解釈
5	5 11 カレヴァラとポホヨラー二つの世界	物語	人物像の把握	1 次の人物について、説明しなさい。 a イルマタラ b アンテロ・ヴィブネン	基本	口答または記述	解釈
5	5 11 カレヴァラとポホヨラー二つの世界	物語	登場人物と身近な人物の比較	3 カレヴァラの登場人物とよく似ている人を書きなさい。家族や友だちで、カレヴァラの登場人物のなかから似ている人はいませんか。あなただは、だれかと似ていませんか。なぜ似ているといえるのか、理由も説明しなさい。	発展	口答または記述	解釈
5	5 11 カレヴァラとポホヨラー二つの世界	物語	場面の把握	2 この物語には、ぶたつづの場所が出てきます。どことどこですか。つぎの書き出しに続くように書きなさい。 「この物語に出てくる場所は・・・」	基本	記述 (書き出しあり)	情報の取り出し
3	2 物語「カラスとじょうろ」	物語	場面の把握	2 この物語には、2つの場面があります。どこと、どこですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
3	2 物語「カラスとじょうろ」	物語	場面の把握	2 この話には、2つ以上の場面があります。どことどこですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
3	5 物語「くらのとびら」	物語	場面の把握	2 この話には、たくさんの場面があります。場面を、すべて書き出しなさい。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2 物語「おれは幸運を手にし、悪いのははじめたる」	物語	場面の把握	3 この物語の場所のうらわりのつづを、すべて書き出しなさい。	基本	記述	情報の取り出し
4	4 5 物語「井戸で糸をつむぐ娘たち」	物語	場面の把握	1 この話には、大きくわけて2つの場所が出てきます。どこと、どこですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	5 5 物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	場面の把握	2 それぞれのエピソードに出てくる場面をすべて書きなさい。 a 勇者レンミンカイネン b サンボをめぐる戦い	基本	口答または記述	情報の取り出し
5	5 5 戦いの日々	物語	場面の把握	a 勇者レンミンカイネン b サンボをめぐる戦い	基本	記述 記述	解釈 解釈
5	5 5 戦いの日々	物語	場面の把握	a 勇者レンミンカイネン b サンボをめぐる戦い	基本	記述 記述	解釈 解釈
3	2 物語「カラスとじょうろ」	物語	問題の把握	3 主人公は、ある問題のために、こまっています。その問題とは、何ですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
3	2 物語「ライオンとネズミ」	物語	問題の把握	2 どちらの主人公も、それぞれ別も問題のためにこまっています。どうい問題のためにこまっているのですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
3	5 物語「くらのとびら」	物語	問題の把握	3 お父さんと、お母さんは、それぞれ問題（心配なこと・こまっていること・いやなことなど）をかかえています。お父さんの問題は何か。お母さんの問題は何か。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2 物語「カラスのチーズ」	物語	行動内容の把握	3 カラスとキツネは、それぞれ何をしようとしていましたか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2 物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	問題の把握	2 次の2つの問いに答えなさい。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2 物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	問題の把握	A この話のはじめに、少年が困っていたことは何ですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2 物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	問題の把握	B この話の終わりに、少年が困っていたことは何ですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し

フィンランド国語教科書小学3～5年 物語教材 設問分類表 資料 1-2

学 年	部 科	単元名	ジャンル	設問のねらい	設 問	問題種別	回答の形式	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	3	物語「クマの子」	物語	問題と解決方法の把握	4 クマの子は、どのような問題のために、こまっていたか。その問題を、どうやって解決しましたが、主人公は問題を解決しようとするが、なかなか解決できません。そのことについて、つぎの順番と並びに、説明しなさい。物語に書かれている順番とはちよっとちがうので、注意すること。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	問題の解決方法の把握	4 主人公は問題を解決しようとするが、なかなか解決できません。そのことについて、つぎの順番と並びに、説明しなさい。物語に書かれている順番とはちよっとちがうので、注意すること。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	問題の解決方法の把握	① 犬のはちから水を飲むとす。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	問題の解決方法の把握	② たるの中の水をさがす。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	問題の解決方法の把握	③ じょうろの水を飲むとす。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	問題の解決方法の把握	④ 森の中で水をさがす。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	問題の解決方法の把握、意見	4 お父さんと、お母さんは、それぞれ、どうやって問題を解決しましたが、その方法について、どう思いますか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	2	物語「ライオンとネズミ」	物語	問題の解決方法の把握、意見	2 この物語の主人公は、それぞれ、どうやって問題を解決しましたが、その方法について、どう思いますか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
4	2	物語「カラスのチーズ」	物語	問題の解決方法の把握、意見	4 カラスとキツネは、どうやって目的を達成しましたが、あなたは、カラスとキツネがしたことについて、どう思いますか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
4	2	物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	問題の解決方法の把握	3 少年は、どのようにして困っていたことを解決しようとしたか。実際には、解決しましたか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
5	5	V 戦いの日々	物語	問題の解決過程の把握	5 「サンボをめぐる戦い」のエピソードで、だが、どのような魔法を使ったことにより、どのような結果がもたらされていますか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
5	5	V 戦いの日々	物語	登場人物の行動に対する意見、感	6 カレヴァラの人々が、がホヨラの人々からサンボをうばったことは、犯罪だと思いますか。それとも、犯罪ではないと思いますか。そう思った理由も書きなさい。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	登場人物の人物像の把握	6 この物語のカラスは、どのような登場人物ですか。下のことばから当てはまるものすべて書きなさい。または、自分で適当な言葉を書きなさい。そして、つぎの例をさんこうにして書きなさい。 (例) 「カラスは(きおくが)よくて、(がまんつよい)です。」 しんちよう おくびよう、頭がよい、いろいろのことを思いつく、か しこい、がまんつよい、のんびりしている、まぬげ、なまげもの、き おく力がよい、せつから	基本	選択肢、記述 (例文あり)	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	登場人物の人物像の把握	7 6のことばから、いちばんよくカラスを説明していると思うものを、ひとつだけえらびなさい。なぜ、そのことばがカラスをいちばんよく説明していると思うのか、理由を書きなさい。そして、つぎの例をさんこうにして、答えを書きなさい。 (例) 「カラスは、(がまんつよい)です。なぜなら、(最後まであきらめなかつた)からです。」	基本	記述 (例文あり)	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	3	物語「クマの子」	物語	登場人物の人物像の把握	2 この物語で、クマの子は、どのような登場人物ですか。下の言葉から当てはまるものをすべてえらびなさい。または、自分で適当なことを書きなさい。	基本	選択肢、口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	3	物語「クマの子」	物語	登場人物の人物像の把握	3 このことばから、いちばんよくクマの子を説明していると思うものを、ひとつだけえらびなさい。なぜ、そのことばがクマの子をいちばんよく説明していると思うのか、理由を書きなさい。	基本	口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
3	3	物語「クマの子」	物語	登場人物の人物像の把握	5 この物語には、どのようなクマが登場しましたか。いちらん表をつくりましょう。	基本	記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価
4	2	物語「カラスのチーズ」	物語	登場人物の人物像の把握	5 カラスとキツネは、どのような登場人物か、下の言葉から当てはまるものすべて書きなさい。または、自分で適当な言葉を書きなさい。 ・親切、さんべん、うそつき、まぬげ、うぬげ、他人をねたむ、いろいろのことばを思いつく、口がうまい、頭がいい、きびしい、するし、うぬげ、ずうずうしい、ねばり強い、おしやべり、ばか、するがこい、かっこい、いばつている	基本	選択肢、口答または記述	情報の取り出し、解釈、熟考と評価

フィンランド国語教科書小学3～5年 物語教材 設問分類表 資料1-3

学年	学 部	単元名	ジャンル	設問のねらい	設 問	問題 種別	回答の形式	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	2	物語「カラスのチーズ」	物語	登場人物の人物像の把握	6 5の言葉から、当てはまるものを、1つ選びなさい。	基本	選択肢、記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	2	物語「カラスのチーズ」	物語	人物像を表す言葉の選択と根拠	A キツネだけを、いちばんよく言いあらわしている言葉は、どれですか。この話のどの部分を読んで、その言葉を選ぶことにしましたか。 B カラスだけを、いちばんよく言いあらわしている言葉は、どれですか。この話のどの部分を読んで、その言葉を選ぶことにしましたか。 C キツネとカラスの両方を、いちばんよく言いあらわしている言葉は、どれですか。この話のどの部分を読んで、その言葉を選ぶことにしましたか。	基本	選択肢、記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	2	物語「カラスのチーズ」	物語	人物像を表す言葉の選択と根拠	5 町ネズミは、どういった性格だと思いますか。下にある言葉から選ぶか、自分で適当な言葉を考えなさい。	基本	選択肢、記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	4	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の性格の把握	・ 矢前がよい、しんせつ、気がきく、こわがり、正直、ゆうかかん、おくびょう、けちんぼ、注意ぶかい、つきあいやすい	基本	選択肢、記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	人物像を表す言葉の選択と根拠	6 町ネズミの性格をあらわす言葉は、どうやって選びましたか。5で選んだ言葉の、理由となる部分を、文中から探しなさい。	基本	記述 (カルタ作成)	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
5	5	II カレヴァアラとポトヨラーニ二つの世界	物語	人物像のまとめ (カルタ)	5 カレヴァアラの登場人物から1人を選び、その人物についての情報をカルタにまとめなさい。ページを眺めずめるうちに、新たな情報が得られたら、カルタに書きましよう。	発展	記述 (カルタ作成)	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	2	物語「よいものは幸せを手にし、悪いものはこらしめられる」	物語	人物の変容の原由の把握	6 弟の人生は、旅に出たことによって、どのように変わりましたか。なぜ、そうなったのだと思いますか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	2	物語「よいものは幸せを手にし、悪いものはこらしめられる」	物語	人物の変容の原由の把握	7 兄の人生は、旅に出たことによって、どのように変わりましたか。なぜ、そうなったのだと思いますか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「井戸で糸をつむぐ娘たち」	物語	行動の理由の把握	5 なぜ、娘はひどいめにあったのだと思いますか。どうやってひどいめにあったのかを説明しなさい。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「井戸で糸をつむぐ娘たち」	物語	行動の理由の把握	6 なぜ、まま娘は黄金をもちたのだと思いますか。どうやって黄金をもちたのかを説明しなさい。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「井戸で糸をつむぐ娘たち」	物語	行動の理由の把握	7 下の表で、左と右の文を比べ、語にどって大事な方を選んでいきなさい。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
5	5	V 戦いの日々	物語	行動の理由の把握	4 「ラミのカレヴァアラ」(90～91ページ)の内容を思い出しましなさい。この2つのエピソードのうち、ラミがよく知っているものは、どちらですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
5	5	IV 富と豊と貧	物語	行動の理由の把握	1 なぜ、サンボがつくれることになったのですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
5	5	V 戦いの日々	物語	行動の理由の把握	1 なぜ、サンボがつくれることになったのですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
5	5	V 戦いの日々	物語	問題解決の方法の把握	B どのようにして、レンミンカイネン生きかえったのですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
5	5	V 戦いの日々	物語	行動の理由の把握	3 なぜ、カレヴァアラの父は、サンボをうばいおとすとしたのですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
3	3	物語「アスの子」	物語	フィクション部分の把握	6 さし給をよく見ましよう。この絵の中で、じっさいにはなさそうなことは、どれだと思いますか。また、じっさいにもありそうなことは、どれだと思いますか。どは、何ですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「井戸で糸をつむぐ娘たち」	物語	フィクション部分の把握	3 この話の中で起こったできごとで、実際の世界では、ぜひたいに起きないこととは、何ですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
5	5	II カレヴァアラとポトヨラーニ二つの世界	物語	フィクション部分の把握	4 カレヴァアラの登場人物や、物語の舞台についての説明のうち、明らかに空想だと分かる部分はどこですか。	発展	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	2	物語「よいものは幸せを手にし、悪いものはこらしめられる」	物語	フィクション部分の把握	5 この話の中で起こったできごとで、実際には絶対に起こらないことを、すべて書きしなさい。	基本	記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の心情の把握	3 なぜ、いなかネズミは町に行きたいと思ったのですか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の心情の把握	7 いなかネズミは、いなかのことを、どう思っていますか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の心情の把握	A この話のはじめは、どう思っているか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の心情の把握	B この話の終わりでは、どう思っているか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の心情の把握	8 文中から、あてはまる部分を探しなさい。	基本	記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	4	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の心情の把握	A いなかネズミが、うらやましている部分。	基本	記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	4	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の心情の把握	B いなかネズミが、何か大事なことに気がついた部分。	基本	記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	4	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の心情の把握	C いなかネズミが、こわがっている部分。	基本	記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	4	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の心情の把握	D いなかネズミが誇どるっている部分。	基本	記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
4	5	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	登場人物の心情の把握	2 ヴァイナマイネンが自然を大切にしていることは、この文章の、どの部分から分かりますか。	基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
5	5	III 世界の創造	物語	登場人物の心情の把握		基本	口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価

フィンランド国語教科書小学3～5年 物語教材 設問分類表 資料 1-4

学年	部	単元名	ジャンル	設問のねらい	設問	問題 種別	回答の形式	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	物語の経過時間の把握	8 この物語のはじめから終わりまで、どのくらいの時間がかかったか、下のことからえらぶか、自分で考えなさい。 数分間、1時間くらい、1週間くらい、1ヶ月くらい	基本	選択肢、口答または記述	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
3	5	物語「くらのとびら」	物語	物語の経過時間の把握	5 この物語のはじめから終わりまで、どのくらいの時間がかかったか、つぎの中から、えらびなさい。または、自分のことばで答えなさい。 4～5分 1ヶ月くらい 1週間くらい	基本	口答または記述	解釈
4	2	物語「カラスのチーズ」	物語	物語の経過時間の把握	7 この話のはじめから終わりまで、どのくらいの時間がかかったか、下の話の自分の言葉で、短く書き直しなさい。または、発表しなさい。	基本	口答または記述	解釈
4	5	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	物語の経過時間の把握	9 この話のはじめから終わりまで、どのくらいの時間がかかったか、下の話の自分の言葉で、短く書き直しなさい。または、発表しなさい。	基本	口答または記述	解釈
3	5	物語「くらのとびら」	物語	あらすじの把握	6 この物語を、内容は変えずに、短く書き直しなさい。あるいは、発表しなさい。	基本	記述、表現(発表)	解釈
3	2	物語「ライオンとネズミ」	物語	場面絵の作成、あらすじの把握	5 この物語から好きな場面を選び、その場面の絵をかきなさい。クラス全員の絵を集めて、物語の内容に合うように順番をかきなさい。それらの絵を使って、この物語を発表しよう。	発展	表現(絵、発表)	熟考・評価
4	2	物語「カラスのチーズ」	物語	あらすじの把握	8 この話の内容を変えずに、短く書き直しなさい。または、口で簡単に説明しなさい。書き始める前に、どこが話の大筋なところなのかを、よく考えること。	基本	口答または記述	解釈
4	2	物語「よいちのは幸せを手にし、悪いものはこらしめられる」	物語	好きな場面絵の作成、発表	10 この話から好きな場面を選び、その絵をかきなさい。いろいろな場面の絵を集めて、発表しよう。	発展	表現(場面絵、発表)	熟考・評価
5	5	IV 竜と雲と饅頭	物語	あらすじの把握	2 この物語全体を、できるだけ短く、書き直しなさい。	基本	記述	解釈
3	3	物語「クマの子」	物語	さし絵を用いたあらすじの説明	7 さし絵を使って、この物語の内容を、順番に発表しよう。	発展	口答または記述	解釈
5	5	III 世界の創造	物語	さし絵の理解の変化の説明	3 この文章を読む前と、読んだあとで、さし絵についての理解は、どのように変化しましたか。友だちと2人で、話し合おう。	基本	話し合い	熟考・評価
5	5	III 世界の創造	物語	さし絵の説明の要約	4 このさし絵の説明を、できるだけ短く書きなさい。	基本	記述	解釈
4	2	物語「よいちのは幸せを手にし、悪いものはこらしめられる」	物語	キーワードの把握	4 古い物語にはよく「3」という「魔法の数字」が含まれています。この語では、どこに「3」という数字が含まれていますか。	基本	口答または記述	情報の取り出し
4	2	物語「よいちのは幸せを手にし、悪いものはこらしめられる」	物語	わかりにくい表現の書きかえ	9 この話で使われている表現で、外国人にはわかりにくいと思うものを、少なくとも2つあげなさい。そして、外国人にもわかるように、やさしく書き直しなさい。(参考問題)	発展	記述	情報の取り出し、 解釈
5	5	IV 竜と雲と饅頭	物語	内容の表現(絵)、説明	3 サンボとは、どのようなものだと思いますか。絵を描き、説明を書きなさい。	基本	表現(絵、説明)	解釈
4	5	物語「井戸で糸をつむぐ娘たち」	物語	物語の比較	8 この話と、第2部の「よいちのは幸せを手にし、悪いものはこらしめられる」を比較しなさい。同じところはどこか、違うところはどこですか。	基本	口答または記述	解釈
5	5	III 世界の創造	物語	調査、物語の比較	6 世界の創造についての、物語や、神話や、調べなさい。それらの内容を、カレヴァラの内容と、比べてみましょう。	発展	記述(調査、比較)	熟考・評価
3	2	物語「ライオンとネズミ」	物語	主題、教訓	4 この物語は、わたしたちに、どのようなことをおしえてくれているのたと思えますか。	発展	口答または記述	解釈
4	2	物語「カラスのチーズ」	物語	主題、教訓の把握	9 この話は、わたしたちに、どのようなことを教えてくれていると思いますか。	基本	口答または記述	解釈
4	2	物語「よいちのは幸せを手にし、悪いものはこらしめられる」	物語	主題、教訓の把握	8 この話は、わたしたちに、どのようなことを教えてくれていると思いますか。	発展	口答または記述	解釈
4	2	物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	主題、教訓の把握	4 この話は、わたしたちに、どのようなことを教えてくれていると思いますか。	発展	口答または記述	解釈
4	5	物語「井戸で糸をつむぐ娘たち」	物語	主題、教訓の把握	4 この話の教訓(わたしたちにとって教えること)は何だと思いますか。	基本	口答または記述	解釈
4	5	物語「町ネズミと、いなかネズミ」	物語	主題、教訓の把握	9 この話の教訓(わたしたちにとって教えること)は何だと思いますか。	基本	口答または記述	解釈

フィンランド国語教科書小学3～5年 物語教材 設問分類表 資料1-5

学年	部	単元名	ジャンル	設問のねらい	設問	問題 種別	回答の形式	情報の取り出し、 解釈、熟考と評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	物語の作成	10 自分で物語を書きましよう。AかBのどちらかからえらび、その指示にしたがって物語を書きなさい。 A 「カラスとじょうろ」の主人公だけを書いて、物語を書きなさい。 B 「カラスとじょうろ」の物語をさんこうにして、つぎのような内容の物語を書きなさい。 ○ ネコは、どうやって細いつぼの牛乳を飲んだのでしょう。 ○ ウサギは、どうやってリンゴの木から果をとったのでしょう。 ○ ネズミは、どうやってかんづめを開けたのでしょう。	発展	記述	熟考・評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	物語の書きかえ		発展	記述	熟考・評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	物語の書きかえ		発展	記述	熟考・評価
3	5	物語「くらのとびら」	物語	物語の作成	7 自分で「おまぬけ村」の物語を書いてみましよう。	発展	記述	熟考・評価
3	3	物語「クマの子」	物語	物語の書きかえ	9 お母さんクマは、いなくなくクマの子をさがすために、新聞に広告をのせることにしました。どういふ広告のせればよいとおもいますか、広告の文章を考えましよう。お母さんクマの名前、住所、電話番号も書きなさい。	発展	記述、表現 (広告)	熟考・評価
3	2	物語「ライオンとネズミ」	物語	物語の書きかえ、発表	6 この物語をさんこうにして、友だちと？で、短くして物語を書きなさい。物語の内容を同じままに、主人公だけを別の動物や人物にすること。物語が完成したら、人形げきにして発表ましよう。	発展	記述、表現 (発表)	熟考・評価
4	2	物語「カラスのチーフ」	物語	物語の作成	10 自分で物語を書きましよう。次の2つの問題から、1つを選んで答えなさい。 A 「カラスのチーフ」の「登場人物」の場面から、1つを選んで答えなさい。そして、指示に従って、物語を書きなさい。	発展	記述	熟考・評価
4	2	物語「カラスのチーフ」	物語	物語の作成	B 「カラスのチーフ」をお手本にして、自分で新しい物語を書きなさい。	発展	記述	熟考・評価
4	2	物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	物語の書きかえ	5 自分で物語を書きましよう。次の3つの指示の中から、1つ選ちなさい。そして、指示に従って、物語を書きなさい。	発展	記述	熟考・評価
4	2	物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	物語の書きかえ	A 主人公と物語の内容は同じまま、場面を現代の世界に変えましよう。	発展	記述	熟考・評価
4	2	物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	物語の書きかえ	B 少年はヒツジ飼いでなく、売店の店員です。売店にだれもお客さんが来ない日で、少年はたいくつしています。	発展	記述	熟考・評価
4	2	物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	物語の作成	C 小さな子どもが、お母さんといっしょに遊びたいと思っています。そこで、けがをしなさいましよう。	発展	記述	熟考・評価
4	2	物語「よいものは幸せを手にし、悪いものはくらしめられる」	物語	物語の続きの作成	11 この話の続きを書きなさい。	発展	記述	熟考・評価
4	5	物語「井戸で糸をつむぐ娘たち」	物語	物語の続きの作成、発表	9 今度は、まま母が井戸に飛び込むことになりました。それから、どうなるでしよう。話の続きを想像して、書きなさい。または、「カラス」で発表しなさい。	発展	記述、発表	熟考・評価
4	5	物語「町ネズミと、いなかなズミ」	物語	物語の続きの作成	10 今度は、町ネズミが、いなかなズミの家をたずねてきました。それから、どうなるでしよう。いなかなズミの家には、何がありますか。そこで何が起こりますか。話の続きを想像して、書きましよう。	発展	記述、発表	熟考・評価
3	3	物語「クマの子」	物語	物語の脚本化	8 この物語を、ぜんぶセリフに書き直して、きやくほんにしてみましよう。声のくふうをしなから、よく書ましよう。	発展	記述、表現 (脚本)	熟考・評価
3	2	物語「カラスとじょうろ」	物語	書いた物語の表現	11 自分で書いた物語をバントマイムにましよう。または、かけ絵げきにましよう。	発展	表現 (劇)	熟考・評価
4	2	物語「カラスのチーフ」	物語	書いた物語の表現	11 「カラスのチーフ」や、自分で考えた物語を、バントマイムが影絵げきにましよう。	発展	表現 (影絵げき)	熟考・評価
4	2	物語「ヒツジ飼いとオオカミ」	物語	物語の表現	6 この物語を、人形げきか、影絵げきにましよう。	発展	表現 (人形げき、影絵げき)	熟考・評価
4	5	物語「町ネズミと、いなかなズミ」	物語	物語の書きかえ	11 この話を、自分の言葉で書き直し、げきにましよう。	発展	記述、表現 (げき)	熟考・評価
4	5	物語「町ネズミと、いなかなズミ」	物語	物語の表現	12 この話を音声げきにして、録音してましよう。効果音を工夫すること。	発展	表現 (音声げき)、録音	熟考・評価
5	5	IV 雷と愛と復讐	物語	登場人物へのインタビュー	4 友だちと2人で、カレヴァラの登場人物のインタビューを演じてましよう。一方が登場人物、もう一方が聞き手を演じること。	基本	表現 (インタビュー)	熟考・評価
5	5	V 戦いの日々	物語	登場人物の現代化、意見	7 もし現在もサンボがあつて、人々の必要とする知識を生み出してくれるとしたら、どのような知識が産みだされるかと思ひますか。	発展	口答または記述	熟考・評価
5	5	III 世界の創造	物語	登場人物の現代化	5 ヴァイオライオンは、必要な知識を手に入れるために、アンテロ・ヴィブネンのもとを訪れましよう。もし、ヴァイオライオンが、いまの時代の人物たつたとしたら、どのような方法で、知識を手に入れることができましようか。	発展	口答または記述	熟考・評価

物語教材 設問パターン一覧表 資料 2-1

第 () 学年 単元名 () 設問の型 時間 チェック欄 実際の添削内容

設問番号	設問の型	時間	チェック欄	実際の添削内容
1	登場人物を問う設問 ① この物語の主人公はだれですか。 ※ (つぎの書き出しに続くように書きなさい。) 「この物語の主人公は・・・」 ② この物語には、2人の主人公がいます。だと、だれですか。 ③ この話の主人公はだれですか。この話のわき役を、すべて書き出しなさい。 ④ ～の登場人物の中から、それぞれあてはまる人物を答えなさい。 a 支配者 b 若者 c 老人 ⑤ 登場人物のうち、あなたがもっとも興味を持った人物は、だれですか。なぜ興味をもったのか、理由も書きなさい。 ⑥ 次の人物について、説明しなさい。(後に登場人物の名前が書いてある。) ⑦ ～の登場人物と、よく似ている人をさがしましょう。家族や友だちで、～の登場人物のだけれど、似ている人はいませんか。あなたは、だれかと似ていませんか。なぜ似ているといえるのか、理由も説明しなさい。			
2	物語の場所、場面を問う設問 ① この物語には、ふたつの場所が出てきます。どこどこですか。つぎの書き出しに続くように書きなさい。 「この物語に出てくる場所は・・・」 ※ 場所という言葉が、場面という言葉になっていることもある。 ② この話には、大きくわけて2つの場所が出てきます。どこと、どこですか。 ③ この物語の場所のつりかわりを、すべて書き出しなさい。 ④ この話には、たくさん場面があります。場面を、すべて書き出しなさい。 ⑤ それぞれのエピソードに出てくる場面をすべて書きなさい。			
3	登場人物がかかえている問題を問う設問 ① 主人公は、ある問題のために、こまっています。その問題とは、何ですか。 ② ～とは、それぞれ問題 (心配なこと・いやなことなど) をかかえています。～の問題は何ですか。 ～の問題は何ですか。 ③ ～とは、それぞれ何をしようとしていましたか。 ④ この話のほかに、～が困っていたことは何ですか。この話の終わりに、～が困っていたことは何ですか。			
4	登場人物の問題解決方法を問う設問、登場人物の行動に対する意見を求める設問 ① この物語の主人公は、どうやって問題を解決しましたか。その方法について、どう思いますか。 ② ～とは、どうやって目的を達成しましたか。あなたは、～がしたことについて、どう思いますか。 ③ 主人公は問題を解決しようとしていますが、なかなか解決できません。そのことについて、つぎの順番どおりに、説明しなさい。物語に書かれていない順番とはちがうので、注意すること。 A ～を～しようとする。 B ～を～する。 C ～で～を～する。 ④ ～とは、どのようにして困っていたことを解決しようとしたか。実際には、解決しましたか。 ⑤ 「～」(作品名)のエピソードで、だれが、どのような～を～ことにより、どのような結果をもたらされていますか。 ⑥ ～が、～したことは、～だと思いませんか。それとも、～ではないと思いませんか。そう思った理由も書きなさい。			

物語教材 設問パターン一覧表 資料2-2

第 () 学年 単元名 () 設問の型 全 () 時間

設問番号	設問の型	時間	子エッセイ欄	実際の発問内容
5	登場人物の性格を問う設問 ① この物語の～は、どのような登場人物ですか(どのような性格だと思いますか)。下のことばから当てはまるものをすべてえらびなさい。または、自分で適当な言葉を考えなさい。そして、つぎの例をさんこうにして書きなさい。 (例) 「～は(○○○)で、(△△△)です。」 ※ 11～18個の選択肢あり ② ①のことばから、いちばんよく～を説明していると思うものを、ひとつだけえらびなさい。なぜのことばか～をいちばんよく説明していると思うのか、理由を考えなさい。そして、つぎの例をさんこうにして、答えを書きなさい。 (例) 「～は(○○○)です。なぜなら(□□□)からです。」 ③ この物語には、どのような～が登場しましたか。いちらん表をつくりましょう。 ④ ～(登場人物)を、いちばんよく言いあらわしている言葉は、どれですか。この話のどの部分を読んで、その言葉を選ぶことにしましたか。 ⑤ ～の性格をあらわす言葉は、どうやって選びましたか。選んだ言葉の、理由となる部分を、文中から探しなさい。 ⑥ ～の登場人物から1人を選び、その人物についての情報をカルダにまとめなさい。ページを読みすすめるうちに、新たな情報が得られたら、カルダに書き足しましょう。			
6	登場人物の行動の理由や変容、重要度を問う設問 ① ～は、～によってどのように変わりましたか。なぜ、そうなったのだと思いますか。 ② なぜ、～は～したのだと思いますか。どうやって～したのかを説明したうえで、答えなさい。 ③ なぜ、～は、～したのですか。(なぜ、～することになったのですか。) ④ 下の表で、左と右の文を比べ、話にとって大事な方を選んでいきなさい。			
7	物語の空想部分を問う設問 ① さし絵をよく見よう。この絵の中で、じっさいにはなさそうなことは、どれだと思いますか。また、じっさいにもありそうなことは、どれだと思いますか。 ② この話の中で起こったできごとで、実際の世界では、ぜったいに起きないことは、何ですか。(すべて書き出しなさい。) ③ ～の登場人物や、物語の舞台についての説明のうち、明らかに空想だと分かる部分はどこですか。			
8	登場人物の心情や相互関係を問う設問 ① なぜ、～は～したいと思っただけですか。 ② ～は、～を、どう思っていますか。 A この話のはじめでは、どう思っているか。 B この話の終わりでは、どう思っているか。 ③ 文中から、～が～している部分を探しなさい。 A ～が、うらやましている部分。 B ～が、何か大事なことに気がついた部分。 C ～が、こわがっている部分。 D ～が、おどろいている部分。 ④ ～が～を～ていることは、この文章の、どの部分から分かりますか。			
9	物語の経過時間を問う設問 ① この物語のはじめから終わりまで、どのくらいの時間がかかったと思いますか。つぎの中から、えらびなさい。または、自分のことばで答えなさい。 4～5分 2～3時間 1日くらい 1週間くらい 1ヶ月くらい 半年くらい ※ 6個の選択肢あり ② この話のはじめから終わりまで、どのくらいの時間がかかったと思いますか。			

物語教材 設問パターン一覧表 資料2-3

第()学年 単元名 () () 全 () 時間

設問番号	設問の型	時間	チェック欄	実際の発問内容
10	<p>あらすじの説明を求める設問</p> <p>① この物語全体を、内容を変えずに、自分の言葉でできるだけ短く書き直さない。または、発表しない。 (書き始める前に、この話の大事なところなのを、よく考えること。)</p> <p>② この物語から好きな場面をえらび、その場面の絵をかきなさい。クラス全員の絵を集めて、物語の内容に合うように順番をならべなさい。それらの絵を使って、この物語を発表しよう。</p>			
11	<p>さし絵を用いた活動を求める設問</p> <p>① さし絵を使って、この物語の内容を、順番に発表しよう。</p> <p>② この文章を読む前と、読んだあとで、さし絵についての理解は、どのように変化しましたが、友だちと2人で、話し合います。</p> <p>③ このさし絵の説明を、できるだけ短く書きなさい。</p>			
12	<p>語句に関する説明を求める設問</p> <p>① 古い物語には、よく「～」という「OO」が含まれています。この話では、どこに「～」というOOが含まれていますか。</p> <p>② この話で使われている表現で、外国人にはわかりにくいと思うものを、少なくとも2つあげなさい。そして、外国人にもわかるように、やさしく書き直さない。(参考問題)</p> <p>③ ～とは、どのようなものだと思いますか。絵を描き、説明を書きなさい。</p>			
13	<p>作品の比較を求める設問</p> <p>① この話と、「～」(作品名)を比較しなさい。同じところはどこですか。違うところはどこですか。</p> <p>② 世界の創造についての、物語や、神話を、調べなさい。それらの内容を、「～」(作品名)の内容と、比べてみましょう。</p>			
14	<p>物語の主題、教訓を問う設問</p> <p>① この物語 (話) は、わたしたちにとって何を教えてくれているのだと思いますか。</p> <p>② この話の教訓 (わたしたちにとって教えること) は何だと思いますか。</p>			
15	<p>物語の作成、書きかえ、続きの作成を求める設問</p> <p>① ～は、～するために、新聞に広告をのせることにしました。どういう広告をせれば良いと思いますか。広告の文章を考えましょう。～の名前、住所、電話番号も書きなさい。</p> <p>② この物語をかこうにして、友だちと2人で、班ごとに物語を書きましよう。物語の内容は同じまま、主人公だけを別の動物や人物にすること。物語が完成したら、人形けきにして発表しよう。</p> <p>③ 自分で物語を書きましよう。次の2つの問題から、1つを選んで答えなさい。 A 「～」(作品名)の「登場人物」「場面」「できごと」の順番などをかえて、物語を書きましよう。 B 「～」(作品名)をお手本にして、自分で新しい物語を書きなさい。</p> <p>④ 今度は、～が～することになります。それから、どうから、どうなるでしょう。～には、何が起きますか。そこで何が起きますか。話の続きを想像して、書きなさい。または、クラスで発表しなさい。</p>			
16	<p>物語の脚本化、音声言語化、劇化などを求める設問</p> <p>① この物語を、ゼムゼリフに書き直して、きやくくんにしてみましよう。声のくふうをしながら、らく音しましよう。</p> <p>② この話を音声けきにして、録音してみましよう。効果音を工夫すること。</p> <p>③ 友だちと2人で、「～」(作品名)の登場人物のインタビュを演じてみましよう。一方が登場人物、もう一方が聞き手を演じて。</p> <p>④ この話を、自分の言葉で書き直し、けきにしましよう。</p> <p>⑤ 自分で書いた物語を人形けきか、パントマイムけき、または、かけけきにしましよう。</p>			
17	<p>状況設定を現代に変えた場面の変化を問う設問</p> <p>① もし、現在も～があって、～をしてくれるとしたら、どのような～が雇われたら、どのような方法で、～することができましようか。</p> <p>② ～は、～するために、～しました。もし、～が、いまの時代の人物だったらとしたら、どのような方法で、～することができましようか。</p>			